令和７年度（2025 年度）
熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業
交流の記録（受入事業報告書）

令和８年（2026 年）３月

熊本市教育委員会

目次

【第１章】はじめに.....4
【第２章】ハイデルベルク市との交流について.....6
【第３章】熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業の概要.....8
【第４章】熊本市団員による報告書.....17
①N.I（熊本学園大学付属高校１年）.....18
②H.O（熊本市立必由館高校２年）.....21
③S.K（熊本学園大学付属高校１年）.....26
④K.K（熊本マリスト学園高校２年）.....29
⑤T.S（熊本学園大学付属高校１年）.....31
⑥N.S（熊本市立必由館高校１年）.....33
⑦U.S（九州学院高校１年）.....37
⑧R.S（熊本県立熊本高校１年）.....40
⑨R.T（熊本市立必由館高校２年）.....42
⑩H.N（熊本県立第一高校２年）.....45
⑪A.N（熊本県立第一高校２年）.....50
⑫K.H（九州学院高校１年）.....53
⑬R.H（熊本市立必由館高校１年）.....55
⑭S.F（真和高校１年）.....57
⑮K.F（熊本信愛女学院高校１年）.....60
⑯Y.F（熊本県立東稜高校１年）.....64
⑰K.M（熊本県立熊本北高校１年）.....67
⑱T.Y（熊本学園大学附属高校１年）.....69
⑲J.Y（熊本信愛女学院高校１年）.....73
⑳E.W（熊本県立東稜高校１年）.....77
【第５章】まとめ.....80
【付録１】熊本市団員研修資料（一部抜粋）.....81
【付録２】熊本市団員へのアンケート結果.....89

【第１章】はじめに

近年、世界的には新型コロナウイルス感染症の流行による社会情勢の変化に加え、ウクライナ情勢をはじめとする国際秩序の急激な変動が生じている。日本においても、こうした状況を踏まえた対応が求められており、在留外国人の増加や国籍・在留資格の多様化、さらには国による多文化共生施策への対応が重要な課題となっている。

このような情勢を背景に、本市は令和６年（2024 年）３月に策定した「第２期熊本市国際戦略（2024 年度～2031 年度）」において、目指す姿を「世界に選ばれる『上質な生活都市』」と定めた。同戦略では、「戦略的な海外展開の推進」と「地域国際化の推進」の２本柱を基本方針とし、国際化の一層の推進に取り組んでいる。具体的には、「戦略的な海外展開の推進」において、世界を魅了する都市ブランド力の向上、効果的な情報発信、海外とのビジネスの促進、国際的なネットワークを活用した本市のプレゼンス向上を図っている。また、「地域国際化の推進」においては、多文化共生社会の推進、グローバルな人材の育成と次世代への継承を進めており、そのなかで次世代を担う青少年の国際的な活躍を後押しするとともにそれらの活躍を次世代へ継承していくこととしている。

このように、政治・経済・文化といった様々な分野でグローバル化が進展し、各国・地域における価値観や社会構造の違いが顕在化する中で、世界規模での相互理解の重要性が改めて認識されている。特に次世代を担う青少年には、多様な文化や価値観に触れ、国際社会を主体的に生き抜くための広い視野と判断力を身に付けることが、これまで以上に求められている。

このような観点から、熊本市教育委員会では、熊本市の青少年に異文化に対する理解を深めてもらうとともに、広い国際的視野を身に付けた青少年の育成を図ることを目的として、「熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業」を実施している。本事業は、平成４年（１９９２年）年５月に本市とドイツ・ハイデルベルク市が友好都市提携を締結したことを契機に開始され、以降３０年以上にわたり継続して実施している。熊本地震や新型コロナウイルス感染症の流行により、一時的に交流事業を中断せざるを得ない期間もあったが、両市の強固な友好関係と次世代を担う青少年の育成という事業理念に支えられ、再開後も着実に交流を積み重ねている。なお、本事業の具体的内容については、第２章及び第３章において詳述する。

本報告書は、令和７年（２０２５年）８月１日から８月１１日の１１日間、来熊したハイデルベルク市青少年交流団員（以下、「ハイデルベルク市団員」という。）２０人と、彼らをパートナーとして受け入れた熊本市青少年交流団員（以下、「熊本市団員」という。）２０人の交流の記録である。熊本で実施した多様な交流プログラムの活動内容を紹介するとともに、熊本市団員 20 人が今回の交流を通して得た学びや気づき、そして次年度に予定されているハイデルベルク市への派遣に向けた抱負をまとめた報告書を掲載している。

本報告書が、「熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業」の詳細な記録として活用されるとともに、本事業のさらなる発展、両市の友好関係の一層の深化、さらには熊本市をはじめとする自治体の国際交流事業や国際社会に貢献し得る人材育成の一助となれば幸いである。

【第２章】ハイデルベルク市との交流について

【ハイデルベルク市の概要】

「古城と大学の街」ハイデルベルクは、13 世紀に建てられたといわれる「古城」、ネッカー川沿いに広がる「旧市街」、対岸の「哲学の道」といった名所を擁し、多くの観光客が訪れる国際観光都市である。

また、14 世紀にドイツ最古の大学として創設されたハイデルベルク大学をはじめとしてバイオ研究や、医療関係の多くの研究機関が集まる研究都市でもある。現在では最新のテクノロジーに支えられた、印刷機械や電気技術、金属、化学製品製造などの産業も盛んである。

ハイデルベルク市の位置

ハイデルベルク城

【友好都市締結の経緯】

昭和３９年（１９６４年)、当時の石坂繁熊本市長が、西独政府の招きにより全国市長会訪問団の団長としてハイデルベルク市を訪問したのを契機に、大学と城、そして市内を流れるネッカー川と多くの類似点を有する両市の友好の歴史が始まった。

以後、様々な分野にわたる民間団体同士の交流のほか、平成元年（１９８９年)の熊本市制 100 周年記念式典へのハイデルベルク市長や芸能グループの来熊、平成２年（１９９０年)の共通の課題である地下水保全をテーマとした水資源国際会議へのハイデルベルク市議会議員の参加等、両市友好の機運が高まった。

平成４年（１９９２年）５月、ハイデルベルク市において「平和と環境に対する共通の

責任」を理念とする友好都市協定が調印された。また、同年９月には熊本市において再調印が行われるとともに、地球規模の環境問題をテーマとした催しを開催し、さらに広い分野に及ぶ活発な交流事業が展開されることとなった。

【熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業】

平成４年（１９９２年）５月、両市間で友好都市提携が締結されたことを受け、教育分野における交流として青少年の隔年相互交流を実施することが決定された。同年には中学生を対象としたスポーツ交流が開始され、翌平成５年（１９９３年）からは高校生による青少年交流（熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業）が開始された。事業開始から令和７年度（２０２５年度）までに、２４２人の熊本市団員をハイデルベルク市へ派遣するとともに、２５８人のハイデルベルク市団員を熊本で受け入れてきた。

平成２９年（２０１７年）には熊本地震の影響により事業を一時休止し、さらに、令和２年（２０２０年）から令和４年（２０２２年）にかけては新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相互交流が困難となった。この期間においても、オンラインでの交流活動を継続し、令和５年（２０２３年）に４年ぶりに対面での相互交流を再開した。

令和７年（２０２５年）は、ハイデルベルク市団員２０人を熊本で受け入れ、令和８年（２０２６年）には今回受け入れた熊本市団員と同一メンバー２０人をハイデルベルク市へ派遣する予定である。

【第３章】熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業の概要

１　目的

熊本市の友好都市であるドイツ連邦共和国ハイデルベルク市との友好交流の一環として、両市青少年の相互交流を実施し、交流プログラムを通して本市の青少年に異文化に対する理解を深めてもらうとともに、広い国際的視野を身に付けた青少年の育成を図ることを目的とする。

２　主催：熊本市教育委員会

３　事業概要

令和７年度（２０２５年度）は熊本でハイデルベルク市青少年交流団を受け入れ、令和８年度（２０２６年度）は熊本市青少年交流団のハイデルベルク市への派遣を行う。また、各年とも受入・派遣に伴う事前・事後研修を実施する。

（１）期間

受入：令和７年（２０２５年)８月１日（金）～８月１１日（月・祝）(１１日間)

派遣：令和８年度（２０２６年度）の夏期休業期間中１０日間程度

（２）団員構成

〇熊本市青少年交流団　　２４人

（内訳）高校生青少年交流団員　　２０人、役職員（団長･総務等）　４人

〇ハイデルベルク市青少年交流団　２４人

（内訳）高校生青少年交流団員　　２０人、役職員（団長･総務等）　４人

（３）滞在形態

受入：原則、自宅からの通いによる交流とするが、社会教育施設（金峰山自然の家）等への宿泊を２～３日程度予定している。

派遣：原則、ハイデルベルク市青少年交流団員をホストファミリーとしたホームステイとする。

（４）交流プログラム内容

受入：後述「７　令和７年度受入プログラム日程及び内容」参照。

派遣：ハイデルベルク市側の交流プログラムに基づく。

４ 団員資格

団員については、次の要件をすべて満たす者とする。なお、令和８年度（２０２６年度）派遣時は原則として令和７年度（２０２５年度）に選考した団員により編成する。

ア　原則として、熊本市内に居住または通学する高等学校またはそれに準ずる学校の１、２年生及び熊本市立総合ビジネス専門学校１年生に在籍する方で、参加について保護者の同意及び学校長の承諾を受けた者

イ　心身共に健康で団体行動・団体生活に十分適応でき、主体性をもって国際交流に取り組む意欲のある者

ウ　過去に市費による海外派遣を経験していない者

エ　事前・事後研修に必ず出席できる者（事前３回、事後１回程度）

オ　令和７年度（２０２５年度）にホストファミリーとしてハイデルベルク市団員の受入（ホームステイ）ができること、令和８年度（２０２６年度）にハイデルベルク市を訪問することについて、家族の理解と承諾が得られる者

５ 熊本市青少年交流団名簿

【熊本市団員】

No.	氏人	所属	No.	氏人	所属
1	N.I	熊本学園大学付属高校１年	11	A.N	熊本県立第一高校２年
2	H.O	熊本市立必由館高校２年	12	K.H	九州学院高校１年
3	S.K	熊本学園大学付属高校１年	13	R.H	熊本市立必由館高校１年
4	K.K	熊本マリスト学園高校２年	14	S.F	真和高校１年
5	T.S	熊本学園大学付属高校１年	15	K.F	熊本信愛女学院高校１年
6	N.S	熊本市立必由館高校１年	16	Y.F	熊本県立東稜高校１年
7	U.S	九州学院高校１年	17	K.M	熊本県立熊本北高校１年
8	R.S	熊本県立熊本高校１年	18	T.Y	熊本学園大学附属高校１年
9	R.T	熊本市立必由館高校２年	19	J.Y	熊本信愛女学院高校１年
10	H.N	熊本県立第一高校２年	20	E.W	熊本県立東稜高校１年

【役職員】

No.	役職	氏人	所属
1	団長	梶原　勢矢	熊本市教育委員会　教育次長
2	指導員	山口　慎太郎	熊本市立必由館高等学校　教諭
3	通訳	浦川　智美	株式会社 JTB 熊本支店
4	総務	樋口　亜由美	熊本市教育委員会　地域教育推進課

6　研修会の日時及び内容

令和７年度（２０２５年度）受入時に実施した研修会の日時及び内容は次のとおり。

研　修　人	日　時
結団式・ 第１回事前研修会	令和７年(２０２５年)６月２１日(土)午前９時～１２時 〇結団式・受入事業説明(午前９時～１０時)※保護者も参加 ・団員自己紹介、決意表明 ・日程及びプログラムの内容説明 ・ホームステイの心得　等 〇第１回事前研修会(午前１０時～１２時) ・パートナー受入の心構え ・ペアワーク、役割決め　等
第２回事前研修会	令和７年(２０２５年)７月５日(土) 午前９時～１２時 ・語学研修（英語・ドイツ語） ・自己紹介動画撮影、出し物決定・練習　等
第３回事前研修会	令和７年(２０２５年)７月２６日(土) 午前９時～１２時 ・レポートの書き方講義 ・パートナー発表　等
事後研修会	令和７年(２０２５年)８月２３日(土) 午前９時～１２時 ・個人レポート発表、講師からのフィードバック ・フィッシュボーンを用いた受入の振り返り、まとめ等

※研修資料については、後述「【付録１】熊本市団員研修資料」参照。

7　令和７年度（２０２５年度）受入プログラム日程及び内容

令和７年（２０２５年）８月１日（金）～８月１１日（月・祝）（１０泊１１日）

日次	日付	行程
1	8/1(金)	ハイデルベルク市団員熊本着 熊本市国際交流会館にてお出迎え 金峰山自然の家にて交流・宿泊
2	8/2(土)	対面式 火の国まつりおてもやん総おどり 金峰山自然の家にて交流・宿泊
3	8/3(日)	ファミリーデー（ホストファミリーとの交流）
4	8/4(月)	熊本市長・熊本市議会議長を表敬訪問 熊本市立必由館高等学校での日本伝統文化体験 熊本城・熊本城ミュージアムわくわく座見学
5	8/5(火)	長崎原爆資料館での平和学習 長崎グラバー園見学
6	8/6(水)	熊本県立大学でのプログラミング体験
7	8/7(木)	美里町砥用屋内ゲートボール場でのモルック体験 農村婦人の家での昼食 美里の森キャンプ場ガーデンプレイスにて交流・宿泊
8	8/8(金)	阿蘇火山博物館見学 阿蘇草千里視察
9	8/9(土)	ファミリーデー（ホストファミリーとの交流）
10	8/10(日)	街中フィールドワーク フェアウェルパーティ（送別会）
11	8/11(月・祝)	ハイデルベルク市団員お見送り、熊本発

【1 日目】８月１日（金）

■ハイデルベルク市団員を熊本市国際交流会館にてお出迎え

熊本市団員は、福岡空港からバスで来熊したハイデルベルク市団員を、熊本市国際交流会館でお出迎えした。これまで両市団員はパートナーとメール等を通じて交流を重ねてきたが、初めての顔合わせとなったことから、緊張しつつも期待と高揚感に満ちた表情で出迎えていた。

【２日目】８月２日（土）

■金峰山自然の家

両市団員は、金峰山自然の家において宿泊し、食事や就寝などの日常生活を共にした。こうした共同生活を通して、双方の文化的背景や生活習慣に対する理解が促進された。

さらに、食事の準備やレクリエーション活動を協力して行ったことにより、団員同士の距離が縮まり、自然なコミュニケーションが生まれるようになった。

■対面式

両市役職員及びパートナー紹介の後、ハイデルベルク市団員によるドイツ語の歌唱が披露された。これに対し、熊本市団員は事前研修会から準備を重ねてきたレクリエーションをハイデルベルク市団員と共に実施し、さらなる交流の深化が見られた。

■火の国まつりおてもやん総おどり

火の国まつりおてもやん総おどりへの参加を通じ、日本の伝統文化を体験した。踊りや音楽は言語の壁を越えて共有され、自然な形で交流が生まれた。ハイデルベルク市団員は、熊本市団員からおどりのレクチャーを受けながら、はちまきを着用して参加し、各自思い思いに祭りの雰囲気を楽しむ様子が見られた。

【４日目】８月４日（月）

■熊本市長・熊本市議会議長を表敬訪問

大西一史熊本市長及び大石浩文市議会議長への表敬訪問を行い、市長から、ハイデルベルク市団員の今後の活躍並びに両市交流の一層の深化を祈念する旨の挨拶があった。

また、ハイデルベルク市団長からは、今回の受入れに対する謝意が述べられ、団員代表により今後の活動に対する抱負が表明された。両市の友好関係が改めて確認され、さらなる交流事業の展開が期待される機会となった。

■熊本市立必由館高等学校での日本伝統文化体験

熊本市立必由館高等学校の協力により、書道、着装、和太鼓など日本の伝統文化を体験する機会を提供した。ハイデルベルク市団員は初めての体験に大変興味を示し、同校生徒の指導の下で高校生ならではの感性を生かした交流が行われた。書道の際には、互いの名前をうちわに書きあうパートナーもおり、日本の伝統文化を楽しむ姿が印象的であった。

■熊本城見学

熊本城見学を通じて、熊本の歴史及び文化理解が促進され、かつ熊本城とハイデルベルク城の共通点や相違点について意見交換を行い、両市の歴史的背景への理解が一層深まった。さらに、熊本地震で被災した熊本城の復旧過程に関する説明は、ハイデルベルク市団員に強い印象を与え、災害復興について考える契機となった。

【５日目】８月５日（火）

■長崎での平和学習

長崎原爆資料館などの見学を通じて、戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて認識するとともに、国や文化を超えて平和を大切にする姿勢の重要性について共有する機会となった。

【６日目】８月６日（水）

■熊本県立大学でのプログラミング体験

熊本県立大学の協力により、同大学の学生によるプレゼンテーションを聴講後、同学生の指導のもと、おみくじアプリのプログラミング体験を実施した。その後は、同大学が開発した「熊本かるたっと」アプリを体験し、ハイデルベルク市団員が熊本弁を話す場面もあった。今回の体験は、言語の違いを越えた相互理解の促進に資するとともに、将来の進路選択を考える契機となった。

【７日目】８月７日（木）

■美里町モルック体験、美里の森キャンプ場ガーデンプレイスでの交流

砥用屋内ゲートボール場では、フィンランド発祥のアウトドアスポーツであるモルックを体験した。両市団員ともに初挑戦の高校生が多く、木製のピンを倒して得点を競い合いながら、楽しみつつ自然と交流が深まっていた。

その後は、道の駅美里佐俣の湯で温泉に入り、美里の森キャンプ場ガーデンプレイスにて BBQ や花火を実施した。これら地域資源を活用した体験を行うことで、地域の暮らしや文化への理解が深まり、都市部とは異なる地域ならではの魅力を実感する機会となった。特に、ハイデルベルク市では法律により正月以外の花火が原則禁止されているため、ハイデルベルク市団員にとって夏の夜の花火は大変珍しく、とても印象深い体験となっていた。

【８日目】８月８日（金）

■阿蘇火山博物館、阿蘇草千里見学

阿蘇地域の雄大な自然景観を見学する中で、環境保全の重要性について学ぶことができた。特に、阿蘇特有の火山地形や広大な草原景観は強い印象を与え、熊本ならではの自然環境について理解を深める貴重な機会となった。

【１０日目】８月１０日（日）

■フェアウェルパーティ（送別会）

最後のプログラムとなったフェアウェルパーティでは、ホストファミリーである熊本市団員の家族も参加し、これまでの交流期間を振り返りながら、次年度にハイデルベルクで再会することを約束し合った。熊本市団員からは、日本の昔ながらの遊びを一緒に楽しみたいという思いを込めて準備した福笑いや英語かるたなどの出し物が披露された。

短期間ながら築かれた信頼関係を確認するとともに、今後も交流を継続していく意欲を共有する締めくくりの場となり、感謝と別れの言葉で会場が包まれた。

【第 4 章】熊本市団員による報告書

本章では、熊本市団員 20 人が今回の交流を通じて得た気づきや学び、次年度のハイデルベルク市訪問に向けた意気込みなどをまとめた報告書を掲載する。事前研修会で学んだレポート作成の要点を踏まえつつ、本事業の目的である「異文化に対する理解」及び「広い国際的視野」の観点からそれぞれの成果をまとめた。

No.	テーマ	団員	所属
1	日独の SNS 交流から考える“声で伝えること”の大切さ	N.I	熊本学園大学付属高校 1 年
2	歴史的背景による文化の違い	H.O	熊本市立必由館高校 2 年
3	言葉と年齢を超えた交流の最善策は	S.K	熊本学園大学付属高校 1 年
4	観光推進における多言語表示の重要性	K.K	熊本マリスト学園高校 2 年
5	グローバル人材に必要なこと	T.S	熊本学園大学付属高校 1 年
6	日常生活の中で感じた文化の違い	N.S	熊本市立必由館高校 1 年
7	異文化交流におけるコミュニケーションスタイルの違い	U.S	九州学院高校 1 年
8	第二言語で話す喜び	R.S	熊本県立熊本高校 1 年
9	体験から学んだ文化の大切さ	R.T	熊本市立必由館高校 2 年
10	ドイツと日本の教育制度の比較からの気づき	H.N	熊本県立第一高校 2 年
11	ドイツの学校生活から見る日本の学校生活の改善点	A.N	熊本県立第一高校 2 年
12	ドイツと日本の教育形態の違いについて	K.H	九州学院高校 1 年
13	「城」の存在意義～熊本市とハイデルベルク市を比較して～	R.H	熊本市立必由館高校 1 年
14	交流を通して見えた英語教育の課題	S.F	真和高校 1 年
15	「食文化」がもたらす愛と感謝について	K.F	熊本信愛女学院高校 1 年
16	観光を通して分かった平和	Y.F	熊本県立東稜高校 1 年
17	ドイツと日本の価値観の違い	K.M	熊本県立熊本北高校 1 年
18	自国のマナーに固執することの必要性	T.Y	熊本学園大学附属高校 1 年
19	グローバルマインドを取り入れた生き方	J.Y	熊本信愛女学院高校 1 年
20	より良い時間の使い方	E.W	熊本県立東稜高校 1 年

※掲載は氏名の五十音順とする。

日独の SNS 交流から考える“声で伝えること”の大切さ

①N.I（熊本学園大学付属高校 1 年）

1　はじめに

私は、熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業に参加した。今年は、パートナーのドイツの女の子達と 11 日間交流した。ホームステイが終わってからも SNS で時々連絡をとって仲を深めることができている。そこで、私が今年の交流と SNS での交流を通して分かったドイツ人と日本人の相違点がある。そこから日本人が学べることがあるのではと思い、本レポートのテーマとした。

2　ドイツ人の SNS の使い方の特徴

出典：ドイツ生活まとめノート「ドイツでよく使われる連絡手段とは？LINE は通じない!?」より引用 https://germany-life.com/communication-tools-in-germany/

私が交流をして興味を持ったのは日本人とドイツ人の SNS での「投稿内容」と「伝え方」の違いだった。私たち日本の高校生は、SNS に友達との写真や日常の出来事を投稿し、LINE で文字でのやり取りをすることが多い。一方で、ドイツの生徒たちは Instagram では旅行の写真が中心で、家族の写真はほとんど見られなかった。投稿頻度が低く、プライベートをあまり公開しないという意識が感じられた。投稿では、日本のように「誰とどこへ行った」など詳しく説明するといった文字を書き込む投稿はほぼなかった。

さらに驚いたのは、彼らが連絡手段としてよく使っていたのが「Snapchat」というアプリだったことだ。Snapchat では、撮った写真や動画がすぐに消える仕組みがあり、ドイツの生徒たちはそれを使って自撮り動画で「今どこにいる」「今日こんなことがあった」と声や表情でドイツの友人や家族にその日の出来事などを伝えていた。文字で説明するよりも、短い動画で感情をそのまま伝えるほうが自然だという考え方があるようだった。

私は最初、突然自撮り動画を撮りだすことや電話を始めることに少し驚いたが、段々このような連絡の仕方もあるのだと受け入れることができた。このような体験を通して、ドイツの人々の SNS の使い方は、プライベートな投稿はあまりしない。また、文面でのコミ

ュニケーションではなく、電話や動画、ボイスメッセージなど声で伝えるという特徴があることが分かった。

3　声で伝えることのメリット･デメリット

ドイツの生徒たちが声や動画で近況を伝えていたのを見て、「声で話すコミュニケーション」には多くのメリットがあると感じた。まず、声には感情がそのまま表れるため、文字だけのやり取りよりも気持ちが伝わりやすい。たとえば、「ありがとう」や「ごめんね」と文字で送ると、相手がどう受け取るかはわからないが、声で言えばその人のトーンや表情から本気の気持ちが伝わる。また、発音や話し方から相手の性格や雰囲気を感じ取ることもでき、より深い信頼関係を築ける。

一方で、ボイスメッセージに関してはデメリットもある。たとえば、録音できる環境が限られることや、恥ずかしさを感じて送りづらいこともある。日本では、周囲に人がいる中で声を出すことに抵抗を感じる人も多く、文化的に「静かに」「丁寧に」伝えることが好まれる傾向がある。そのため、ボイスメッセージはまだあまり一般的ではない。

しかし、文字だけのやり取りでは誤解が生まれやすく、相手の感情を読み取るのが難しいという課題もある。だからこそ、ドイツのように声を使って「伝わる」ことを大切にする姿勢は、日本の SNS 文化にも取り入れる価値があると感じた。

4　日本とドイツの比較と提案

日本とドイツでは、SNS でのコミュニケーションの取り方に明確な違いがある。日本では、相手を気づかう文化が強く、LINE などでの丁寧な文面のやり取りが一般的だ。スタンプや絵文字を使って感情を表すことも多いが、相手の本当の気持ちを完全に読み取るのは難しい。一方、ドイツの子たちはより率直で、声や動画を通して伝えることを大切にしている。言葉に気持ちをのせて伝えることで、それが短いメッセージでも温かさが感じられると思った。

日本では「言いすぎない」「控えめである」ことが美徳とされるが、その分だけ誤解やすれ違いが起こることもある。もし日本の SNS 文化に、ドイツのような“声で伝える”要素が少し加われば、より素直でやさしいコミュニケーションが生まれるのではないかと思う。

たとえば、親しい友達とのやり取りで短いボイスメッセージを使うだけでも、相手に安心感を与えられるだろう。声のトーンや表情のニュアンスは、文字では表現できない大切な情報だからだ。

SNS が人と人をつなぐためのものなら、「早く返すこと」よりも「きちんと伝えるこ

と」を大切にする姿勢が求められる。声を通じたコミュニケーションが、その第一歩になると感じた。

5　まとめ

今回の交流を通して、私は“伝え方”の多様さと、文化の違いから学べることの大きさを実感した。声で伝えることは、ただ便利な方法ではなく、「相手の心に届く伝え方」だ。日本でも少しずつ、文字だけでなく声を使って想いを伝える場面が増えれば、人とのつながりがより温かく、深いものになると思う。SNS の形が変わっても、「伝えたい」「分かり合いたい」という気持ちは同じだ。だからこそ、ドイツのような声の文化を取り入れながら、日本らしいやさしいコミュニケーションをこれからも大切にしていきたい。

参考文献

[1]ドイツ生活まとめノート「ドイツでよく使われる連絡手段とは？LINE は通じない!?」（2025 年 7 月 24 日）(https://germany-life.com/communication-tools-in-germany/, 2025 年 8 月 23 日最終閲覧）

歴史的背景による文化の違い

②H.O（熊本市立必由館高校２年）

１　はじめに

私は以前、アメリカ合衆国テキサス州サンアントニオの高校生に対し、熊本城を案内するという事業に参加したことがある。今回、ドイツ・ハイデルベルク市の高校生とともに１１日間のプログラムを過ごしたことで、両者の性格や日本人の考え方に大きな違いがあることに気付いた。アメリカとドイツの学生の違いは、ハイデルベルク市の交流期間のほうが長期であることも要因の一つであると考えられるが、仲良くなるまでのスピードや物事の捉え方、重視している価値観に違いが見られた。本報告書では、過去に経験した交流経験をもとに、アメリカとドイツの歴史的背景による文化の違いを軸に考察を行うこととする。

２　交流から見えた国ごとの違い

サンアントニオの高校生との交流では、彼らは思ったことをすぐに言い、表情やジェスチャーなどで自分の気持ちを相手に伝えようとする傾向が多かった。一方で、ドイツ・ハイデルベルク市の高校生は、サンアントニオの生徒と比べると少し周りを伺いながら積極的に仲良くなろうとする姿勢があった。また、「この食べ物は好き」「ここに行きたい」など自分がしたいことを正確に伝えようとしていた。一方で、日本人は初対面の人を相手にすると控えめになり、自分から話しかけたり、すぐに思ったことを伝えたりしない。しかし、日本人は、相手のしたいことを読み取り、傾聴力や共感力が高いと世界的にも高く評価されている。日本人のように空気を読み、察する能力が高いことをハイコンテクストという。図によれば、日本、ドイツ、アメリカで比べると、日本はハイコンテクストの国に位置しており、ドイツとアメリカではドイツ、アメリカの順にローコンテクストに位置していることがわかる[1]。

出典：株式会社アットグローバル「ハイコンテクストの意味とは？これからの日本はローコンテクスト化が避けられない！」より引用
https://www.atglobal.co.jp/blog/high-context-meaning/#index_id8

3　日本とドイツの文化・習慣・性格の違い

ここからは、更に食文化や習慣、文化の違いについて、日本とドイツ、アメリカを比較しながら説明する。

（1）食文化

日本：米を主食とし、季節に合わせた生活スタイル（一汁三菜）

ドイツ：日本のように一日三食、料理を作る習慣がない

アメリカ：パン、パスタ、米、じゃがいもが中心に食べられている

（2）コミュニケーションスタイル

日本：相手に配慮し、遠回しな言い方が多い

ドイツ：直接的な表現で、率直に伝える。ネガティブなことや断るときも明瞭に伝える

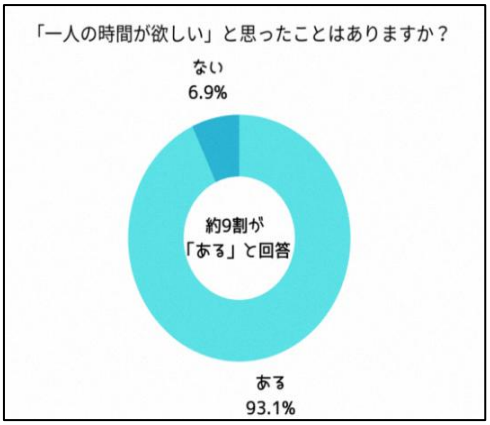
アメリカ：ドイツと同様にオープンで直接的。察するという文化は少ない

（3）習慣や性格

日本：優柔不断で周りの人と違うことを嫌う、統一性を好む、自分時間が欲しいと思っている人が多い [2]

ドイツ： Ruhezeit（ルーエツァイト）という平日の夜 22 時から翌朝 6 時または 7 時、昼の 13 時から 15 時までは静かにする時間がある、早くから将来を決める

アメリカ：個人主義を大切にする、多様な背景の尊重



出典：マイナビウーマン　「一人の時間が欲しい心理とは？　一人の時間をつくる方法も紹介」より引用
https://woman.mynavi.jp/article/150916-22/

アメリカとドイツを比較すると、両国には「自分の考えをはっきりと述べること」「判断の速さ」「個人を大切にする姿勢」といった共通点が見られる。 一方、日本とドイツを比較すると、「相手への配慮」や「静かな空間（ひとりの時間）を好む傾向」に類似性が確認できる。

また、ドイツと日本では「真面目で勤勉、時間を守る」という共通点もある。 このことから、アメリカと日本は性格や考え方の面で対照的であると考えられるが、ドイツはアメリカと日本の両国に共通点を持つ国であると言える。 そこで、ドイツと日本は、どのような歴史的背景や社会制度から特徴が似てきたのか分析を行った。

４　日本人とドイツ人は、なぜ似ていると言われるのか

日本人とドイツ人は「真面目で勤勉、時間を守る」と言われる理由について調べてみると、軍事制度、法律、医学における歴史的背景が影響しており、これらが現在の国民性の形成につながったことがわかる。

（１）プロイセン式徴兵制度による規律意識の変化 [3]

・時間厳守

・規律を守る

・上命下服（上官の命令に従う）　が浸透。

このことから、日本人とドイツ人の「真面目さ、時間を守ること」の意識がわかる。

（２）憲法の影響（大日本帝国憲法、1889 年）　[4]

・プロイセン憲法をモデルに制定

・天皇中心の国造りを目指していたため、ドイツを手本として作成

このことから、日本人とドイツ人の国民意識が個人の尊重と基本的人権の保証、平和主義であることがわかる。

（３）日本人医師による普及 [5]

・高木兼寛、北里柴三郎らがドイツで学び帰国。

・「実験と証拠に基づく医学」を徹底。

このことから、厳密性、公衆衛生への意識、実学を重視する姿勢がわかる。

先の分析から、明治期の日本は、近代化のために軍隊や法律、医学でドイツ式の制度を取り入れ、プロイセン式徴兵制度や科学的医学を通じて、規律・合理性・正確さが社会全体に浸透した。この結果、「日本人は真面目・勤勉」という評価が形成されたと考えられる。

５　互いを尊重して共に生きていくためには

これまでの分析を踏まえて、以下の提案を行う。

私は将来、観光業や教育などの国際的な場面で活躍できる職に就きたいと考えている。従って、今後、多文化背景を持つ人々と関わる機会が増えると予測する。そのため、異なる文化や習慣、価値観を持つ人々が互いに支え合い、尊重し合える社会の構築が重要であると考える。そこで、今後国際化が進む中でお互いが尊重し合える社会をつくるために何ができるのかを提案する。

提案①　相手を思いやり、気遣い、理解しようとする

提案②　具体的で正確な情報で伝えることを意識する

提案③　どの国の人が、自国に来ても誰でもわかりやすい表示にする

提案④　国際共通語である「英語」を話せる・聞けるようにする

提案⑤　日本人でも英語を話せるように、教育プログラムを「読む・書く」ではなく、「聞く・話す」を中心としたスタイルに変える

例）熊本県が行っている「やさしい日本語講座」の実施、熊本市観光案内所での多言語パンフレットの配布や外国語対応スタッフの配置

6　考察

本報告書では、ドイツ・日本の考え方や生活の違いについて、歴史的背景に焦点をあてて分析した結果、徴兵制度や憲法、医療分野でドイツを見本とした日本の文化の形成が背景にあることがわかった。そのため、両者には、考え方や生活に共通点があることも判明した。

7　まとめと来年に向けて

今回のプログラムでは、自分の英語力の低さを実感しつつも、ドイツの人たちの考え方や価値観に触れることができてとても良い経験になった。私達が住んでいる熊本・日本という小さな視野だけでなく、世界の視点を持てるようになりたいと感じた。そこで来年の交流に向けて、英語力を伸ばすために、スピーキング力やリスニング力を高め、加えて、ドイツの文化や歴史を学び、来年は今年よりもっとより良いプログラムになるよう努力していきたい。

山鹿灯篭の練習会で浴衣を着る様子

フェアウェルパーティーでの記念撮影

参考文献

[1]株式会社アットグローバル「ハイコンテクストの意味とは？これからの日本はローコンテクスト化が避けられない！」（2025 年 3 月 10 日）（https://www.atglobal.co.jp/blog/high-context-meaning/#index_id8, 2025 年 9 月 25 日最終閲覧）

[2]マイナビウーマン　「一人の時間が欲しい心理とは？　一人の時間をつくる方法も紹介」（2023 年 3 月 2 日）（https://woman.mynavi.jp/article/150916-22/, 2025 年 8 月 28 日最終閲覧）

[3] Ameba「クレメンス・メッケル：明治日本を変えたドイツ人“軍オタ将軍”とは？」☆T-Ushidan note☆（2025 年 7 月 20 日）（https://ameblo.jp/duke3110/entry-12917711308.html?utm_source=chatgpt.com, 2025 年 8 月 30 日最終閲覧）

[4] Try iT (更新年不明)「5 分でわかる！大日本帝国憲法の発布」（https://www.try-it.jp/chapters-3066/lessons-3096/point-2/, 2025 年 8 月 30 日最終閲覧）

[5]公益財団法人日本心臓財団「耳寄りな心臓の話（第 21 話）『銃弾よりも多くの命を奪った脚気心』」（https://www.jhf.or.jp/publish/bunko/21.html, 2025 年 8 月 30 日最終閲覧）

言葉と年齢を超えた交流の最善策は

③S.K（熊本学園大学付属高校１年）

1　はじめに

世界中でグローバル化が進み、熊本でも台湾を中心とする方々の移住が増えてきており、地域住民と外国人の言葉と年齢を超えた交流がより一層大事になってきた。そこで、今回の受け入れ期間で特に交流できたと感じた経験についてまとめ、今後の新たな交流で活用していきたいと考えている。

2　交流とは

とあるサイトによると、交流とは「人や物事が互いに接触し、影響を与えながら新しい価値や理解を生み出す働き」であるとされている［1］。しかし、私が考える交流は、言葉や年齢が異なる外国人との関わりにおいては、それだけでは始まらない。私にとっての交流とは、同じベクトル（目的）を持ち、さまざまなことを一緒に行うことである。その代表的な例がスポーツだ。スポーツには勝敗があり、競技者全員が「勝つ」という共通の目的を持って行動する。だからこそ、スポーツを通じた活動が交流を深める最善の方法ではないかと考える。

実際に、私のパートナーがサッカー好きだと聞いていたため、私は以前所属していたサッカークラブチームの U-7、U-8 の練習に彼と一緒に参加した。その体験をもとに以下に記していく。

3　サッカーの練習に参加して

サッカーという競技は、得点競技であるため、チームがオフェンス（攻める）側の場合は攻撃に参加し、点を取るためにパスを回したりクロスを入れたりなど無意識に攻撃のための行動をしている。これはディフェンス側でも同じである。同じベクトルを持って無意識に行動するということは、言葉が通じなくても自ら行動し勝ちにいく姿勢をチームに対し共有しているということではないかと思う。実際、子供たちとパートナーが最初に会った頃は「hello」と言ってくれる子もいれば、緊張していたのか会話ができない子もおり、少し緊張感のある始まりだった。しかし、試合中になると積極的に声を出し、点を決めるとハイタッチをするなどを続けるだけで心の距離は明らかに近づいていた。練習が終わると、一緒にかけっこをし、パートナーがサインをして渡すなど少ない時間ではあったがサッカーという一つのスポーツを通して、言葉と年齢を超えた交流をすることができた。

４　ハイデルベルクメンバーとの交流

今回の交流事業の中で、最終的に私は他のハイデルベルクメンバーとも男女関係なく交流を深めることができた。

その大きなきっかけとして、２日目に行われたバレーや対面式でのドッチボールがあげられる。これもスポーツによるもので、勝利を目指すために同じベクトルを向いていたという点ではサッカーの時と同じであろう。

しかし、私とハイデルベルクメンバーとは年齢が近かったので、サッカー交流のように年齢や言語も違う人が行う交流ではなく、言語のみの違いであった。

私たちの世代が言語の壁を乗り越えるには、小さい子供に比べると、英語の基礎的な能力があるため比較的簡単かもしれない。

しかし、英語をしっかりと習っている今、自分が伝えたいことは正しい文法を使用することに意識が集中し、遠回しな表現となることで伝えたいことが伝わっていない状況に陥ることもあった。

そこで、簡単な文章で伝えるように変えてみた。例えば、Let`s play football. や、ハイデルベルクメンバーの英語の発音に合わせ want to ではなく wanna を使ってみるなどの努力を行った。その結果、ハイデルベルクメンバーとの交流を徐々に深めていくことができた。

この件でも交流には、同じベクトルをもつことが重要であることがわかった。また、熊本市メンバーとハイデルベルク市メンバーはどちらもパートナー以外のメンバーとも交流を深めたいと思い、「聞く」「話す」という２つの行動を積極的に行った。この交流を深めたいという、同じベクトルを持った仲間たちがコミュニケーションをとったことで、男女関係なく交流を深めることができたのではないかと思う。

５　２つの経験からみる交流のポイントとこの先の展望

今回の２つの経験から、交流のポイントは、大きく分けて２つあることがわかった。

１つ目は、相手と同じベクトル（目的）をもって行動すること、２つ目は、自らのコミュニケーションの手法を見直すということだ。この２つを意識するだけで、交流という面では大きな一歩を踏み出せると私は考える。

来年度は、私たちがハイデルベルク市に行きホームステイを行うが、その中でも現地の交流方法などに少しでも目を向け、さらにパワーアップし、より深い交流方法についての考察をまとめたいと考える。

また、今回の受け入れによって学んだたくさんのことを、日常生活だけではなく、学校

を支える生徒会の副会長としての役割の中でも生かし、よりよい未来を創造していきたいと考える。

（サッカーを楽しむ様子）

（ハイタッチする様子）

参考文献

［1］コトバスタ「「交流」とは？意味や例文や読み方や由来について解説！」（https://kotobasta.com/637/, 2025 年 8 月 20 日最終閲覧）

観光推進における多言語表示の重要性

④K.K（熊本マリスト学園高校２年）

１　はじめに

今回の交流を通して熊本にある様々な場所を訪れて感じたことは、多言語対応をしている所が少ないことだ。今回、日本語が分からないパートナーと １１日間共に過ごしたことで気づくことができた。

２　現状

国土交通省観光庁が実施した訪日外国人旅行者の受入環境に関する調査によると、旅行中に困ったことの回答として、「施設等のスタッフとのコミュニケーション（英語が通じない等）」や「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」が挙げられている。[1]

今回パートナーと１１日間過ごしていく中で、その点について改めて実感させられた。資料館や博物館は多言語表示をしているのが当たり前になってきているが、飲食店やショッピングモールではメニュー表が日本語のみ、英語で対応できるスタッフが少ない、交通機関では路線図や乗り換え案内が日本語だけで表示されているといった課題があり、外国人旅行者や在住者が正確な情報を得ることができず、迷ってしまうことがある。

そうした中でパートナーに説明を求められた際、可能な限り説明を行ったものの、伝えたいことが正確には伝わらいということが多々あった。

このように、多言語表示がないことで、外国人が日本で安全かつ快適に観光することは難しくなり、日本社会の国際化やインバウンド対応にマイナスの影響を与えるのではないかと想定される。日本についてもっと知ってもらう為にも、観光推進のための多言語表示の充実は、外国人にとっての利便性向上だけではなく、日本全体のホスピタリティ向上にもつながる重要な問題だといえるだろう。

３　観光推進に対する多言語表示の取り組み

多言語表示の充実に向け、以下の提案を示す。

（１）インフラ設備・技術導入

・QR コード

掲示物やメニューに QR コードを付け、多言語の情報ページにアクセスできるようにする。

（２） 人材育成

・英語教育

接客業や公務員、観光地のスタッフ向けに英語の基礎的な語学研修を行う。また、外国人との対応マナーの研修も実施。言語やマナーに関しては、学びの範囲を限定することなく、市民に広く学びを提供する市民講座などを開設し、地域全体が国際化に向けた柔軟な対応を受け入れる。

４ 考察

私が今回この課題に気づくことができたのは、本プログラムに参加して実際に日本語が全く理解できないパートナーと密に時間を共有し、１１日間過ごしたからである。日本語で常に会話している多くの人々は疑問にも思わないだろう。上記で話した通り、観光推進のための多言語表示の充実は重要な問題である。もっと多くの地域や施設、人が取り組むことで実現するだろう。

水前寺成趣園にて日本庭園、古今伝授の間を観光

参考文献

[1]国土交通省観光庁「訪日外国人旅行者の受入環境に関する調査を実施しました　～旅行中「困ったことは無かった」と回答した割合が大幅増～」観光庁ホームページ（2025年4月18日）（https://www.mlit.go.jp/kankocho/news08_00022.html, 2025年8月23日最終閲覧）

グローバル人材に必要なこと

⑤T.S（熊本学園大学付属高校１年）

１　はじめに

グローバル人材とは国際的な環境で活躍する人材のことで、近頃は英語力などの語学力に加えてコミュニケーション能力が必要とされている。このことから英語力は基本としてなければならないものだと分かった。

２　気づき

私はこの交流事業を通して、ドイツと日本のグローバル化という観点において差を感じた。まず、グローバル化とはグローバリゼーションともいわれ「地球規模で技術や情報、人の移動が起こる現象」または「それが活発に行われること」を意味する。私は特に人の移動、交流の面で差を感じた。きっかけは、「ドイツにはいろいろな国から来た人が学校にいるよ。彼らとは英語で話すよ。」とパートナーに教えてもらったことだ。

３　ドイツの生徒との差

私は、ドイツの生徒とのメールでの会話は難しくなかったので、実際に会った時にも、文法や単語力の点で普通の会話をする程度ならできると思っていた。

しかし、初日のバスの中で会話をすると会話のスピードが速く、ところどころの単語を聞き取ることしかできず、聞き返すことが多く、簡単な反応をしているだけだった。日が増すにつれ段々と聞き取れるようになり、会話を広げられるようにもなったが、初日の驚きは忘れられなかった。

４　英語力の現状

文法や単語をただ勉強して書くだけではいけないと実際に会話したことで感じた。そこで思い出したことがある。それは私が小学生の時に通っていた英会話教室のことだ。単語や文法を教えることが中心の学校とは違い、アメリカ人の先生との討論や英語のアニメを見たりすることが多く、感覚で英語を学んでいた。

また、私の高校の授業では、１対１で英語圏の大人と３０分間会話するというものがある。これらは実際に英語で会話をするために必要な聞く力と話す力を育てていると思っていたが、もっと英語力を高めるには聞き取りや発音が大切なのかもしれない。

５　英語を使った交流

日本では、市や県、学校などで他国との交流事業が行われているが、日常で外国人と日本語以外の言語で話すことは少ないと思う。しかし、初めに言った通り、ドイツの学校にはドイツ語が分からない人もおり、日常的に英語で会話している。[1]そのため、英語で会話することへの緊張や不安も少ないと考えられる。では、なぜ生徒が英語を使う機会が多いのだろうか。その理由は学校にあると思った。ドイツは物価が安いことや治安がいいこと、多くの大学で学費が無料であることなどから、2023 年の留学生の人数が世界で 3 番目に多いためである。

6　まとめ

この交流事業によって、自分の英語能力の低さに気づいた。そこから、日本の英語教育とドイツの教育を比べて考え直してみた。[2]すると、日本は全体的に英語能力が低いことに気づいた。その理由として、実際に流暢な英語を聞いたり話したりするような訓練が行われていないこと、日本の地理的要因から英語にふれる機会が少ないことが挙げられる。では、日本でこの問題を解決するような教育が始まったとして、日本の英語能力は上がるのだろうか。私は基本的な部分では上がると思うが、そこからさらに上達させるにはそれぞれの努力が必要だと考える。今の日本にも英語を流暢に話す人はいる。それは彼らが努力をしたからだ。このことから日本人の考え自体も変化させなければならないと感じた。まず、自分自身から変えていきたい。私は、もっと世界に視点を向けることや身近にある英語に興味を持って触れること、実際に英語を使ってみることで能力の向上を目指したい。その未来に国際的にも活躍できるグローバル人材があると考える。

7　来年にむけて

来年の夏は私たちがドイツに出向く。わからないことが多いと考えられるので英語力とコミュニケーション能力がもっと大切になる。ドイツは色々な文化がある多国籍社会であるため、今年よりも気づくことが多いと思う。周りの環境を見つめなおし、来年に向けて準備をし、多くのことを学んでいきたいと思う。

参考文献

[1]ドイツ留学サポートセンター「ドイツ留学 7 つの魅力」（https://doitsu-ryugaku.jp/side/appeal/,2025 年 8 月 21 日最終閲覧）

[2]QA UPDATES「ドイツの大学で学ぶ留学生数が過去最高に－DAAD の調査報告」（2023 年 12 月 1 日）（https://qaupdates.niad.ac.jp/2023/12/01/student-mobility-germany/, 2025 年 8 月 21 日最終閲覧）

日常生活の中で感じた文化の違い

⑥N.S（熊本市立必由館高校 1 年）

1　はじめに

今回、私は熊本市主催で行われたハイデルベルク市との交流事業に参加した。この体験は自分にとって多くの学びを得る貴重な機会となった。私はこの 11 日間をパートナーと共に過ごす中で、会話や行動の中から文化の違いを肌で感じることができた。今回は私が実際に感じた文化の違いを様々なエピソードをレポートに書いていこうと思う。

2　食文化

まず私が感じたのは食文化の違いだ。日本の食文化について見てみよう。日本では旬の食材や見た目の美しさなど味だけではなく様々なところに工夫のポイントがある。おせち料理や懐石料理などはその代表的な例で、料理の並べ方や色合いにも意味があるとされている。このことから日本人は食に関するこだわりが強いと考えることができるだろう。これに対しドイツの食文化を見てみよう。ドイツではシンプルで量のある食事を楽しむ傾向が強く、肉やジャガイモを主食とし、塩味や酸味のしっかりとした味付けが主流であるとされている。また、昼に温かい食事を取り、夕食はパンやハム、チーズなどで軽く済ませるのが伝統的であるとされている。ドイツでは食に関してこだわりがなく、料理に手間をかけないため、素朴な料理が多いことも特徴的だ。これは料理よりも他のことに時間をかけたいと考える人が多いからであるとされている。[1]

また、肉やジャガイモが主食とされている理由について考えてみよう。ドイツは寒冷地であるため寒い冬に備え保存の効く食品が好まれ、肉を燻製して加工したソーセージやハムなどが古くから親しまれてきた。ボリュームのある豪快な骨付き肉や塊肉の料理を食べる習慣も寒い冬を乗り越えるために根付いているようだ。[1]ジャガイモが主食であることも肉が主食であることと近い理由で、小麦などはドイツなどの寒冷地では栽培が困難であるのに対しジャガイモは寒さに強く栽培をすることができたからであるという。1770 年代始めには穀物生産が壊滅的打撃を受け深刻な飢饉が生じた。しかしジャガイモはそうした悪影響を免れたため生産が急速に拡大していったのである。[2]このようなことからその土地の特徴や歴史が、今の食文化をつくっているのだと気がつくことができた。

さらに、食材だけでなく食べるときの習慣も異なるということにも気づいた。日本ではいただきますやごちそうさまでしたなど食材や作ってくれた人に対する感謝の気持ちを表すことが当たり前である。しかしドイツにはそのような決まった言葉はなく、むしろ食卓

での会話そのものが食事を楽しむ大切な一部であるとされている。私は食事をする際に会話をメインにすることはあまりなく、食べ終わってから会話を行ったりすることが主だったが、今回パートナーと食事を共に取ることで、食事は人との交流の時間でもあるという考え方に納得をした。普段食べているものや食事のとり方が違う人と共に食事をする中で戸惑うこともあったが様々なことに気がつくことができてとても面白かった。

3　挨拶やマナーの違い

次は挨拶やマナーについて深堀りしていこう。まず日本の形式的な挨拶の仕方についてだ。日本ではまず挨拶の言葉を述べ相手の状況や関係性に応じて会釈、敬礼、最敬礼を行う「語先後礼」が基本だとされている。[3]

また、学校や職場など特定の場所では挨拶は重視されがちだが、日常ではスルーされることも多いように感じる。一方でドイツの形式的な挨拶について見てみよう。ドイツでは基本的に買い物中でもエレベーターの中でも挨拶をすることが一般的であるとされている。[4]実際に私も彼女が町中で初対面の外国人に挨拶を行い、軽くコミュニケーションを取っているところを見たことがある。彼女は初対面にも関わらず、笑顔で挨拶や会話を交わしており最後には「良い一日を！」と互いに言い合っていた。私はこの場面に居合わせ、会話が終わったあと、とても素敵だと思った。日本でもこのように気軽に日常の中で挨拶や会話を行うことが日常になっていけば良いのにとも思った。

また、彼女は私の両親にあったとき迷わず手を差し出し、笑顔で挨拶をしていた。相手の緊張を和らげる仕草に、改めて日本の形式的な挨拶との違いを強く感じた。日本では礼儀を「形」で表すことが多いのに対し、ドイツでは「気持ちを直接伝える」ことが重視されているように思った。

次はマナーについて深堀りしていこう。マナーにも様々なものがあるが、今回は主に公共の場でのマナーについて私が感じたことを話していこうと思う。電車やバスなどの公共交通機関などを利用している時をイメージしてみてほしい。日本の電車やバスの中は基本的に静かでそのように過ごすことがマナーとされているように感じる。それに比べドイツのバスの中は皆が大きな声でコミュニケーションを取っているため静かではないと彼女は教えてくれた。そのため彼女は日本のバスに乗ったとき「日本のバスはとても静かで落ち着きがあって良いですね。」と話してくれた。それを聞いた時、確かにバスや電車の中が静かであることは当たり前ではないなと改めて感じることができた。

４　観光や日常活動の違い

観光や日常の過ごし方にも違いがあった。日本人は観光の際、「有名なスポットを順番にまわる」ことを重視する傾向がある。例えば熊本城を観光しに行った時のことを考えてみてほしい。基本的には熊本城の中は順路が決められており、展示物なども順路に沿って並べてあるため、回る順番は基本的に皆同じだろう。しかし彼女たちは、自分が興味を惹かれたものの場所へと移り変わっていくような周り方でとても自由であった。

また、写真を撮る際にも自分が撮りたいと思った場所やその時に写真を取っていて、日本人なら取らないような場所などの写真を取っていて面白かった。このような体験から日本の「決まった見方を共有するような文化」とドイツの「個人の感覚を大切にする文化」の違いを表しているように思えた。商店街での買い物の中でも違いを感じた。日本人は買い物をするとき友人同士で最低限の会話を行い、静かに買い物を行うことが基本的であるように感じる。一方で彼女の買い物は店員さんにも積極的に声をかけ、「これを友達へのお土産にしたい」と笑顔で伝えていた。この光景を見て買い物は単なる購入の購入行為ではなく、人との関わりの場になるのだと気づかされた。日本では「迷惑をかけないように」と遠慮しがちだが、ドイツでは「率直に気持ちを伝える」ことが自然であり、そこに人間関係の温かさが生まれるのだと気づかされた。

５　まとめ

今回の交流を通して、私はドイツと日本の文化の違いを比較しながら多くのことを学ぶことができた。食事、挨拶、観光や日常生活のあらゆる場面で文化の差を感じたが、それは決して優劣をつけるものではなく、それぞれの国が大切にしてきた価値観の現れだと思った。日本の「礼儀正しさ」や「調和を重んじる姿勢」は美徳であり、ドイツの「率直さ」や「自由な発想」もまた大きな魅力であると改めて感じることができた。異文化に触れることは、相手の文化を知るだけでなく、自分の文化を改めて見つめ直すきっかけにもなる。今回の経験を通して私は、文化の違いを恐れるのではなく、尊重し合いながら交流することが大切であると実感した。この学びを忘れず、今後も様々な文化に触れ、自分の視野を広げていきたいと思った貴重な体験であった。

参考文献

[1]SHARE DINE「ドイツ料理とは　特徴や伝統料理を合わせて解説]」（2022 年 8 月 19 日）（https://sharedine.me/media/know-how/german-cuisine, 2026 年 3 月 12 日最終閲覧）

[2]南直人「ドイツを味わい尽くそう！じゃがいも事典」ドイツニュースダイジェストホームページ（2017 年 8 月 18 日）（http://www.newsdigest.de/newsde/features/8763-kartoffel-3/, 2026 年 3 月 12 日最終閲覧）

[3]にほんご日和「日本の挨拶の習慣と起源。その他各国の挨拶は？」（https://haa.athuman.com/media/japanese/culture/1477/, 2026 年 3 月 17 日最終閲覧）

[4] ばたごん夫婦@ドイツワーホリ「挨拶がこんなに大事！？ドイツの挨拶文化」no+e ホームページ（2025 年 1 月 12 日）(https://note.com/ksksngm39/n/n6449be212bac, 2026 年 3 月 12 日最終閲覧)

異文化交流におけるコミュニケーションスタイルの違い

⑦U.S（九州学院高校１年）

１　はじめに

今回の体験を通して、文化や言語の違いがどのように会話のスタイルに表れるのかを強く感じた。本レポートでは、私が体験した出来事と調べた資料をもとに、「コミュニケーションスタイルの違い」をテーマとして考察し、その意味や今後への学びについて述べたい。

２　交流体験からの気づき

私のパートナーは英語を流暢に話すことができ、初対面の時から積極的に会話をリードしてくれた。一方で、私は彼ほど英語に自信がなく、言いたいことがすぐに出てこなかったり、相手の話すスピードについていけなかったりする場面があった。そんな私に対し、彼は話すスピードを落とし、できるだけシンプルで分かりやすい表現を選んでくれているように見えた。その姿勢から、相手への思いやりや配慮を強く感じた。

しかし、同じドイツ人同士で会話しているときの彼の姿はまったく違った。驚くほど早口で、互いの話にかぶせるように意見を交わしていた。笑い声や強調のイントネーションが飛び交い、まさに「テンポの良さ」と「明確さ」が際立つコミュニケーションだった。その様子は、私との会話のときとの大きなギャップを感じさせた。私はそこで初めて、「外国語を使っているとき」と「母語を使っているとき」では、コミュニケーションのスタイルが大きく変化するのだと実感した。

３　文化的背景

日本について調べると、「日本人はすべて言葉にしなくても相手の気持ちを察する能力がある」と示されていた。これは文化人類学でいう「ハイコンテクスト文化」と呼ばれる特徴で、表情や沈黙、雰囲気などの非言語的な情報が重要視される文化である。

一方で、ドイツやアメリカのように情報を言葉で明確に伝えることが重視される社会は「ローコンテクスト文化」とされる。［1］

この視点から私の体験を振り返ると、パートナーが私にゆっくりと話してくれたのは、相手に合わせる「配慮」の姿勢、つまりハイコンテクスト的な要素を取り入れてくれてい

たのではないかと思う。一方で、ドイツ人同士の会話がスピーディで明確だったのは、ローコンテクスト文化の特徴そのものだと考えられる。

４　言語環境の影響

さらに、JNEIA（日本ネット輸出入協会）の記事では、ドイツ語圏における英語学習と母語の関係について紹介されていた。ドイツ語は英語と文法や語彙が比較的近いため、学習のハードルは低いとされている。しかし長い間、映画やドラマは吹き替えで視聴されることが多く、英語が日常に浸透しにくい環境が続いていた。そのため、世代によって英語力に差が生じることがあった。しかし近年では、教育制度の変化やインターネットの普及によって英語が不可欠な存在になり、若者の英語力が大きく向上している。［2］私のパートナーが英語を自在に操り、しかも相手に合わせて話し方を工夫できたのは、まさにそのような言語環境の変化が背景にあるのだと考えられる。

つまり、「文化的なコミュニケーションスタイルの違い」と「言語教育や環境の変化」の両方が、今回の交流に影響していたのではないだろうか。

５　考察と今後の課題

この体験から私は、コミュニケーションには二つの重要な要素があると学んだ。ひとつは「文化的なスタイルの違い」、もうひとつは「言語を学ぶ環境の違い」である。ハイコンテクスト文化で育った私が、ローコンテクスト文化を背景に持つ相手と交流するときには、自分の伝え方や理解の仕方を意識的に調整する必要があると感じた。例えば、相手に対して自分の意見をより明確に表現すること、また相手が直接的に意見を述べても「攻撃的」と受け取らず、文化的背景を理解した上で受け入れることが大切だと感じた。さらに、語学力を伸ばすだけでなく、相手の文化的背景を理解しようとする姿勢も欠かせない。言葉だけでなく、沈黙や表情、会話のテンポといった非言語的要素も観察することで、より深い理解につながるのではないかと思う。

来年度、私がドイツに行くときには、この学びを生かしたい。相手に負担をかけないよう、自分の言葉をはっきりと伝える努力をすると同時に、相手の話し方や文化を尊重し、柔軟に対応できるようになりたいと思う。また、単に「ドイツ人はこうだ」と一括りにするのではなく、個人差や多様性にも目を向け、一人一人との対話を大切にしていきたい。

自分の名前を漢字で書くパートナー

ドイツの団員と会話するパートナー

参考文献

［1］MEIKO GLOBAL「「ハイコンテクスト」「ローコンテクスト」の違いは？具体例と異文化理解のポイントを解説」（2025 年 4 月 8 日）（https://meikoglobal.jp/magazine/high-context-and-low-context/, 2025 年 9 月 6 日最終閲覧）

[2］JNEIA 日本ネット輸出入協会「外国語学習と母語の関係～ドイツ語圏を例に」（2016 年 11 月 14 日）（https://jneia.org/161114-2/, 2025 年 9 月 6 日最終閲覧）

第二言語で話す喜び

⑧R.S（熊本県立熊本高校１年）

1　はじめに

まず、私が今年度の交流事業を通して学んだことは、これからの自分の人生に間違いなく活かされる、有意義で刺激的な体験であった。

今回、熊本市での受け入れを通して学んだことの１つは、英語が外国人と関わる中で非常に重要であるということだ。それは、英語教育が世界で普及しているからと言う意味ではなく、互いに直接ことばを交わすことこそが、人と人とを繋ぐ力を持つという意味である。

本報告書では、私自身の学びや気づきを中心に構成しており、読者の皆様には私の体験を通して第二言語としての英語学習の意義を考えるきっかけとしていただければ幸いである。

2　学んでいることは同じ

幾度かの研修を終えて、バスの中で初対面のパートナーと隣り合って座り、英語で軽い自己紹介をかわしていると、彼の話す英語に対して驚きと気づきがあった。なぜなら、とても聞き取りやすかったからだ。学校の ALT の先生が話す英語や、塾で聞いてきたリスニング問題の英語と比べて速度は遅く、また母音が強く発音されているからだと気づいた。

当然ながらドイツの公用語はドイツ語である。ドイツでは、人々はドイツ語を使って生活しているので、彼らの多くにとっては英語を使うことは日常的ではない。つまり、日本と同じように、英語は学校で学ばれ、グローバル化の進展する社会に役立てられている。

ハイデルベルク団員が私たちと英語で話す中で言葉に詰まり、他の団員に「〇〇は英語で何と言うのか」と尋ねる場面が度々あった。

また、彼らの使う英語は、文法的に常に正しいとは限らなかった。平均的な英語力の差はあるものの、人それぞれに英会話の得意不得意があり、その際、言葉に詰まったり、文法的に間違ったりすることがあると感じた。そういう点では、日本人とドイツ人は根本的に同じであると言えるのではないかと気づいた。その気づきによって、私は深い親近感を覚え、また共に時間を過ごすにつれて、それは増していった。

つまり、互いが母国語ではない英語を使って交流することは、英語を母国語とする人との会話にはない独自の良さがある。さらに、文法の正確さや流暢さを必要以上に求めなくても、対等なコミュニケーションを図ることができる。

3　ことばを交わすということ

近年、翻訳アプリの普及や AI の発達により、誰でも簡単に異なる言語を読むことが可能になった。また、AI 翻訳の発達は今後さらに進み精度の向上が期待されている。そのため、周囲には「英語が話せるようになる必要がなくなるのではないか」と考える人たちがいる。本当にそうだろうか。私はそうは思わない。

突然だが、「言葉」という語に「葉」の漢字が用いられるようになった起源は、『古今和歌集』の序文にある「ひとのこころをたねとして、よろづのことの葉となる」という表現に由来するとされている[1]。木に無数の葉が茂るように、「こと」にも多様な伝え方があり、またそれは決して日本語に限った話ではなく、世界中の言語に共通して見られるものである。

伝え方というのは、言葉選びに限った話ではなく、抑揚や、話すときの表情などさまざまだ。互いが不完全な英語であっても、苦闘しながらなんとか直接ことばを交わすことの良さは、翻訳アプリを使っていてはありえないもので、その重要性を強く認識する必要があると考える。

一方で、英語を第二言語とする外国人との英語を通じたコミュニケーションには、短所があることに気づいた。それは発音の問題である。英語であっても、母国語のドイツ語からの訛りがある上、完全に異なって発音していることがあると、ハイデルベルク団員との会話を通して感じた。例えば、ハイデルベルク団員の中には、サムライをザムグァイ、ジャパニーズをヤパニーズなど、明らかに誤って発音されている言葉があり、戸惑った。これは、ドイツ語と英語のアルファベットと発音の対応関係の違いがあるからであり、それは他のラテン文字、つまりアルファベットを使用した言語についても同様であると考える。この対応関係の違いが、思いがけないところでコミュニケーションの障害となることがしばしばあったので、注意が必要であると感じた。

4　さいごに

改めて、私は今年度の交流を通して直接ことばを交わすことのできる大切さと素晴らしさを知ることができた。この経験をこれからの日々の英語学習、さらにはドイツ語学習に活かして、また成長して(英検準一級、独検 5 級取得を目指す)、来年度の交流に参加できればと思う。

参考文献

[1]千世「日本語探究　「言葉」の語源」no+e ホームページ（2022 年 10 月 18 日）（https://note.com/chise2021/n/n44b4fdba828b, 2025 年 8 月 15 日最終閲覧）

体験から学んだ文化の大切さ

⑨R.T（熊本市立必由館高校 2 年）

私は、この体験の中でドイツと日本の違いに注目して考えた。その中で私は、文化の大切さについて改めて考えることができたと思う。11 日間、パートナーと一緒に過ごす中で、日常生活、食べ物、衣服、そして言語など様々な違いについて身近に感じることができた。これから主に言語と文化についてこの体験から考えたことなどを示そうと思う。

1　初めての挑戦

私はこのような交流の機会に参加すること自体初めてで、とても緊張していた。これまで、私は挑戦することを怖いと感じ、積極的に活動することが出来ていなかった。この交流事業に参加することもとても勇気のいることだった。しかし、異文化交流にとても興味があった私にとって、参加してよかったと心から思う体験になった。

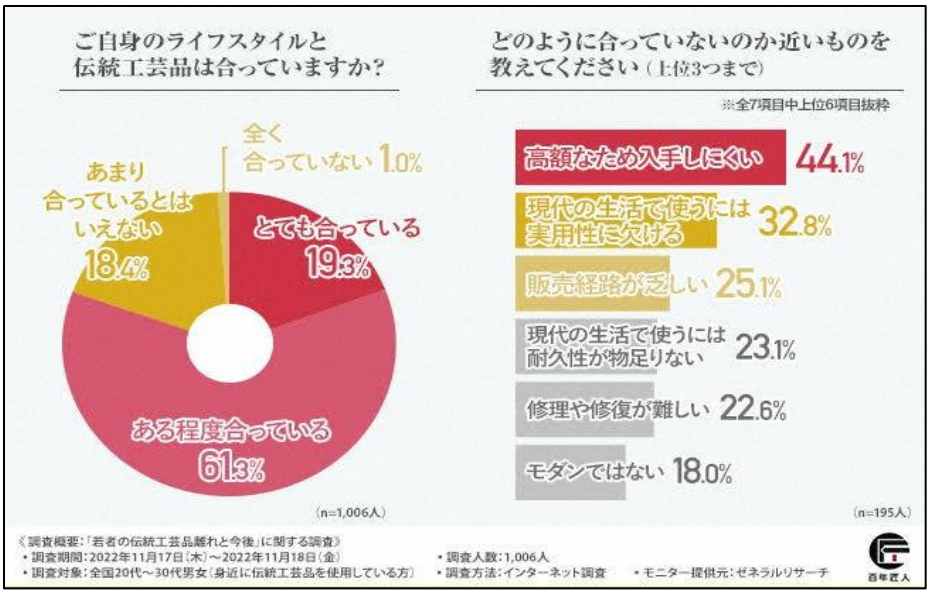
2　言葉の壁

私がこの交流事業の中で一番不安だったのは、言語が違うことだった。言語が違うことでコミュニケーションが取れるかどうかすごく不安だった。しかし、パートナーと過ごすことでわかってきたのが、言葉以外の表情やジェスチャーで伝わることもあるということだった。上手な英語でなくても一生懸命伝えようとすれば、相手はとても真剣に耳を傾けてくれるし、話していてとても心地よいと感じた。時々、上手く伝えられなくて、もどかしいと感じることもあったが、お互いを尊重することで上手くいったことが多かったと思う。また、私はパートナーと過ごす中で、文化についても様々な刺激があり、日本の文化の大切さや素晴らしさを改めて感じた。

3　文化への関心

私のパートナーは、日本の文化についてとても興味をもってくれていて、日本のものを家族に買っていきたいと話していた。特に風鈴と抹茶とそのカップを欲しいと話していて、一緒に探しに行った。風鈴は色んなお店をまわったが置いているところが少なく、意外にもあまり売られていないことを知った。県によってそれぞれ違いはあるかも知れないが、日本の文化を日本人はあまり身近に感じていないのではないかと疑問に思った。

また、風鈴を探している時、私たち家族自身も風鈴について深く考え、風鈴の歴史などについて知ろうと思ったことがなく、日本人であるというだけで日本の文化について知った気になってしまい、あまり探求をしてこなかったと感じた。そこでインターネットを使って伝統工芸品と日常生活の関係性について調べたところ、下のようなグラフを見つけた。[1]



出典:ゼネラルリサーチ「若者の伝統工芸品離れと今後に関する調査」(株式会社百年匠人「【若者の伝統工芸品離れ】これからの時代、「伝統ものづくり産業」には何が必要? 求められる「変化」とは?」PR TIMES ホームページより引用)
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000113210.html

このグラフによると、「ご自身のライフスタイルと伝統工芸品は合っていますか」という問いに対し、「ある程度合っている」という項目が全体的に多いが、「とても合っている」と「あまり合っているとはいえない」の項目がほぼ一緒の確率であることが分かる。そして、合っていない理由として考えられるものに「高額のため入手しにくい」や「販売経路が乏しい」などがあることが分かる。販売経路が乏しいと言う理由は、私たちが風鈴を探していた時に感じたことと同じで、私たち日本人は日常生活でそんなに伝統文化と触れ合う機会がなく、身近ではなないという考察に至った。

次に私は、風鈴の歴史について調べた。調べたサイトによると、風鈴は、一説には起源が中国やインドとされ、もとは竹林に吊り下げて置き、音の鳴り方によって物事の吉兆を占うための道具だった。これが仏教と同時に日本に入ってきて、寺院の屋根に吊るされる「風鐸」となった。さらに、風鐸には魔除けの意味があり、その音の聞こえる範囲に住む人々には災いが起こらないと信じられていた。しかし、江戸時代までには風鈴は夏の涼し

さを感じさせるものになったと記載されていた［2]。このような歴史を調べて私は、風鈴のことを何も知らないのだと改めて感じた。風鈴はただ夏を涼しく感じるための日本のインテリアだと思っていたが、諸説では日本が起源ではなく、別の国の物の可能性があり、今とは全く違う意味があるなど様々な発見があった。私たちが普段使っているものや、昔からあり歴史のあるものなど、他にも調べると新たな気づきを発見できるかもしれないと感じた。

私は、風鈴や抹茶以外にもパートナーと一緒に私の家族と折り紙をするなど日本の文化と触れ合った。日常的に折り紙をすることは私たち家族にはなく、こういう機会は久しぶりであったため、パートナーと過ごすことで日本の文化について考えるきっかけになって良かったと思った。

４　最後に

私は高校で茶道部に所属している。しかし、今まで活動をする上であまり深く考えてこなかった。今回、茶道の文化についての歴史などを考えるきっかけや気づきに繋がったと思う。さらに、これからの活動のなかでもっと茶道のことを知って欲しいと感じ、この文化を大切していきたいと思った。また、日本の文化を自分なりに掘り下げて考えてみて、これからの様々な探求活動や、自分の趣味である読書と関連付けて、日本の歴史や伝統工芸品についての本を読んでみたいと思った。そして、来年はもっとお互いの文化について語り合いたいと感じた。

参考文献

[1]株式会社百年匠人「【若者の伝統工芸品離れ】これからの時代、「伝統ものづくり産業」には何が必要? 求められる「変化」とは?」PR TIMES ホームページ（2023 年 1 月 19 日）（https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000113210.html, 2025 年 9 月 27 日最終閲覧）

[2]ワゴコロ「風鈴とは?～風鈴の歴史と種類、体への効果～」（2025 年 9 月 18 日）（https://wa-gokoro.jp/traditional-crafts/wind-bell/, 2025 年 9 月 27 日最終閲覧）

ドイツと日本の教育制度の比較からの気づき

⑩H.N（熊本県立第一高校 2 年）

1　はじめに

熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業に参加し、同世代のドイツ人と実際に交流することで、普段の生活の中では経験できない体験をすることができた。その中でも一番興味深かったことは、受け入れたパートナーとの会話の中で話題となった教育制度についてである。私は将来教育に関する仕事に就きたいと考えていることもあり、このテーマを設定し、本レポートを作成することにした。

2　ドイツの教育制度の概要[1]

ドイツの教育制度には、日本と異なる特徴が多く見られる。以下では、就学前から高等教育までの制度を整理し、日本の制度と比較しながらその概要をまとめる。

（1）就学前教育

幼稚園は満 3 歳からの子どもを受け入れる機関であり、保育所は 2 歳以下の子どもを受け入れている。

→　日本も上記と同様である。

（2）義務教育

義務教育は 9 年（一部の州は 10 年）である。

また、義務教育を終えた後に就職し、見習いとして職業訓練を受ける者は、通常 3 年間、週に 1 ～ 2 日職業学校に通うことが義務とされている（職業学校就学義務）。

→　日本では教育基本法により義務教育の期間はドイツと同様に 9 年である。義務教育を終えた後は就職または進学を選択するが、ほとんどの中学生が高校へ進学する。また、就職後に職業訓練や職業学校に通う人は少ない。

（3）初等教育

初等教育は、基礎学校において 4 年間（一部の州は 6 年間）行われる。

→　日本では小学校で 6 年間行われる。

（４）中等教育

ドイツの中等教育は、生徒の能力や適性に応じて進路が分かれる。主な学校は、ハウプトシューレ（職業訓練に直結する５年制）、実科学校（中級職や専門職を目指す６年制）、ギムナジウム（大学進学を目指す９年制）の３種類である。加えて、一部の州を除いて数は少ないが総合制学校も存在する。

後期中等教育段階では、職業学校（週 1～2 日の定時制・通常３年）をはじめ、職業基礎教育年（全日１年制）、職業専門学校（全日 1～2 年制）、職業上級学校（職業訓練修了者等を対象に、修了すると実科学校修了証を得られる。全日制１年以上または定時制３年程度）、上級専門学校（修了者に高等専門学校入学資格を授与。全日２年制）、専門ギムナジウム（修了者に大学入学資格を授与。全日３年制）など、多様な職業教育機関が整備されている。また、専門学校を修了すると上級の職業資格を得ることができ、夜間ギムナジウムやコレークでは職業従事者に大学入学資格を与えている。

→　日本では中学校で初等教育の続きを３年間行う。

なお、ドイツ統一後、旧東ドイツ地域各州は、旧西ドイツ地域の制度に合わせる方向で学校制度の再編を進め、多くの州は、ギムナジウムのほかに、ハウプトシューレと実科学校を合わせた学校種（5 年でハウプトシューレ修了証、6 年で実科学校修了証の取得が可能）を導入した。

（５）高等教育

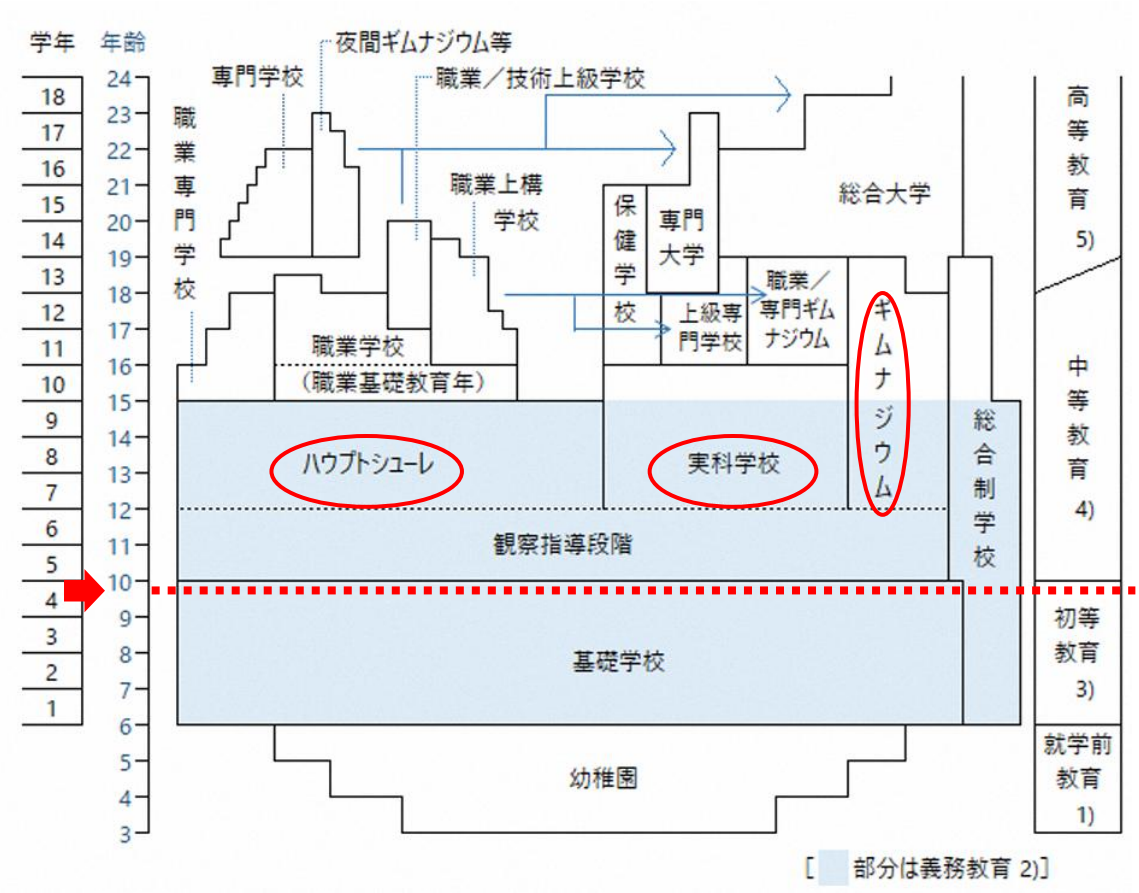
高等教育機関として、大学（総合大学、教育大学、神学大学、芸術大学など）と高等専門学校がある。修了にあたって標準とされる修業年限は、通常、大学で４年半、高等専門学校で４年以下とされているが、これを超えて在学する者が多い。

→　日本では高等教育として、大学（国立大学、私立大学、専門学校）に行く。修了にあたって標準とされる修業年限は、通常、大学で４年、医学部や薬学部などの専門分野では６年の修業年限が設定されている。

◆ポイント◆

ドイツでは小学４年生の時点で進路が分かれ、その後の職業や学習の方向性に大きな影響を与える。

【ドイツの学校系統図】



出典：独立行政法人労働政策研究・研修機構「第 8-2-4 表 ドイツの学校系統図」をもとに作成[2]
https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2025/08/d2025_8T-02-4.pdf

3　ドイツの教育制度により期待される効果

・社会全体としては、効率的に人材の育成と分配ができる。

・本人の適正に応じて、職業の現実的な選択ができる。

・仕事に就けない人が少なくなる。

・早期に進路を決めることで、長い期間をかけて実践的な教育や高度な教育を受けることが可能になる。

4　ドイツの教育制度が抱える問題点

・社会全体では最適でも、各人にとっては最適な選択がなされない可能性がある。

・早期に進路を選択するため、子どもの可能性を狭めるリスクがある。

・進路の変更がしにくい。

・社会的な格差の固定につながる。

5　まとめ

ドイツの教育制度を調べていく中で最も衝撃を受けたことは、「小学 4 年時に将来を決定する大きな選択」をすることである。合理的で多くの効果が期待できる反面、様々な問題点も考えられた。

私は今、自分の進路について毎日のように考えている。仮にドイツの教育制度が日本に導入されていたならば、このように思い悩むことはなく、将来に対して漠然とした不安を抱くこともなかったかもしれないと感じる。その一方で、日本の憲法でも保障されている「職業選択の自由」の観点などからは、危うさも同時に感じ取った。

日本の教育制度は、将来の進路について早い段階でははっきり決めないため、時に多くの悩みを生み出してしまう。しかし、これは自分の未来について長い時間をかけて選択することのできる「自由」や「チャンス」の副産物であることに気づくことができた。

今回、他国の教育制度を比較することで、両国の教育制度の違いに驚くとともに、日本の教育制度の姿を別の角度から改めて認識することができた。グローバル化が一層進展する国際社会において、エネルギーや鉱物などの資源に乏しい日本が持続的に発展していくためには、人材の育成、すなわち教育が極めて重要なテーマであり、他国の制度も参考にしながら、常に制度を改良し続けていくことが重要である。来年度、「学生のまち」とも称されるハイデルベルクを訪問することを今からとても楽しみにしており、ドイツの教育の一端に触れ、自己の学びにつなげられるよう準備を進めていきたい。

出典：YOUNG GERMANY「ドイツの大学で学ぶ　ー　ハイデルベルク大学の場合」より引用[3]
https://www.young-germany.jp/2014/08/%E3%83%89%E3%82%A4%E3%83%84%E3%81%AE%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%A7%E5%AD%A6%E3%81%B6%E3%80%80-%E3%80%80%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%87%E3%83%AB%E3%83%99%E3%83%AB%E3%82%AF%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%AE/

参考文献

[1]文部科学省「４．ドイツの学校系統図」文部科学省ホームページ（https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/015/siryo/attach/1374965.htm, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧）

[2]独立行政法人労働政策研究・研修機構「第 8-2-4 表 ドイツの学校系統図」（https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/databook/2025/08/d2025_8T-02-4.pdf, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧）

[3] YOUNG GERMANY「ドイツの大学で学ぶ　ー　ハイデルベルク大学の場合」（2014 年 8 月 28 日）（https://www.young-germany.jp/2014/08/%E3%83%89%E3%82%A4%E3%83%84%E3%81%AE%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%A7%E5%AD%A6%E3%81%B6%E3%80%80-%E3%80%80%E3%83%8F%E3%82%A4%E3%83%87%E3%83%AB%E3%83%99%E3%83%AB%E3%82%AF%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%AE/, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧）

ドイツの学校生活から見る日本の学校生活の改善点

⑪A.N（熊本県立第一高校 2 年）

1　はじめに

私は幼い頃から海外の文化に興味があり、海外のドラマや映画を観た際、登場する学生たちの服装や髪型がとても自由であることに衝撃を受けた。その経験から、日本の学校における厳しい校則について、「勉強とは直接関係がないにもかかわらず、思春期という大切な時期に、どうしてここまで個性を制限する必要があるのか」と疑問を抱くようになり、他の国と自分の国を比較してみたいと思うようになった。

そこで今回、GDP が日本よりも高く、教育制度も整っており、文化や歴史も異なるドイツの同世代の学生たちと交流する機会を通して、彼らがどのような環境で学んでいるのかを直接体感し、比較・考察したいと思い、本テーマを選んだ。 [1]

2　考察

実際にドイツの学生たちと交流してみると、彼らは非常に個性豊かで、自分の考えをはっきりと主張しているように感じられた。これは、ドイツの学校では「個性の尊重」が重視されているからではないだろうかと考えた。また、ピアスをしている人や髪を染めている学生もおり、日本の学校と比べて、校則がそれほど厳しくないことが伺えた。

また、好奇心が旺盛であり積極的にコミュニケーションをとろうとするところから、学び方が自由に自分の意見を発言できるような形式になっているのではないか。

3　日本の教育

日本の校則は、法律では決められておらず、学校自体が決めている。私の通っている学校の校則は、必ず制服を着用、靴下は白色のみ、頭髪は加工せず肩に掛かったらゴムでまとめるなどと身だしなみについて細かく決められている。

また、授業の形式は基本的に座学で体験型の授業はあまり重視されておらず、班活動などはあるが、各授業の先生が学び方を決める。

4　ドイツの教育①（交流相手へのヒアリング）※ペア＝交流相手

私の交流相手のペアは、私立の学校に通っていた。その学校では、校則が比較的緩やかで、制服の着用義務もなく、髪型や髪色に関しても特に細かい規定はなかったという。また、授

業においても、自分の学び方に合った方法を選ぶことができ、別の教室で勉強したり、グループでの作業が取り入れられる（SBL）など、自由度の高い学びが実践されていた。

ただし、公立高校の中にはスマートフォンを朝に預けなければならないなど、比較的厳しい校則がある学校もあると聞いた。つまり、ドイツでも校則の厳しさには学校ごとの差があるようだ。そこで自分で詳しく調べることにした。

5　ドイツの教育②（文献調べ）

調べると、SBL 学習とは Selbstbestimmtes Lernen の略で、自分で自習をする時間があることがわかった。[2]これは私のペアが先ほど述べていたものと一緒だと考えられる。SBL では自分でレポートや演習と、宿題以外の何を学ぶか自分で決めることができ、場所もカフェテリアや教室と自由に決めることができる制度だ。自分で自分のことを考える自立心と、考えたことを実行する自主性を身に付けることになる。

また、ドイツには校則がほとんどないという。これは民主主義を重んじるため、学校が勝手に校則を決めることはあってはならないからだと推測する。[3]

6　まとめ

ドイツの学校生活の様子は日本と大きく違い、生徒を躾けないことがわかった。学校は勉強をする場所であり、躾けを行うのは家庭のすることだという意識があることが今回調べてみて知ることができた。一方、日本では教師がしつけの役割を担っており、勤務時間も近年問題視されている。そう考えると、日本は生徒だけでなく、教師の負担も大きいのではないかと思った。そこで、生徒に自由な環境で勉強させることを目指す前に、日本の教員のあり方についても考え直さなければならないと思った。

また、この交流を通して、自分の英語力やコミュニケーション能力を見つめ直す良い機会にもなった。今回はペアにしか調査をすることができなかったので、来年ドイツに行く際には、さらに多くの学校について調査をしたい。また、どうすれば日本はドイツのような自由を重んじる教育制度を取り入れることができるのかについても、深く探究していきたい。

参考文献

[1] 内閣府「国民経済計算（GDP 統計）」内閣府ホームページ（https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html, 2025 年 9 月 3 日最終閲覧）

[2] 和辻 龍「分科会報告　現場で見る日本とドイツの教育の違い」明治大学ホームページ (https://www.meiji.ac.jp/shikaku/kyoikukai/6t5h7p000032qn8j-att/ryuwatsuji.pdf, 2025 年 9 月 3 日最終閲覧)

[3]Yumenavi「ブラック校則はドイツにはない？　～民主主義との微妙な関係～」(https://yumenavi.info/vue/lecture.html?gnkcd=g011176, 2025 年 9 月 3 日最終閲覧)

ドイツと日本の教育形態の違いについて

⑫K.H（九州学院高校 1 年）

1　はじめに

私がこのプログラム中に特に関心を持ったことは、日本の教育方針が海外と比べると依然として一斉指導型であり、受け身の学習が中心であるという点である。特にドイツでは『発言すること』が教育の中で重視されていると知り、日本との大きな違いを感じた。さらに、10 歳という早い段階で進路が分かれる制度にも驚いた。グローバル化が進む現代社会においては、自ら考え、発言し、行動できる力がより求められている。

2　日本の教育制度の特徴

日本では、小学校 6 年間と中学校 3 年間が義務教育であり、その後ほとんどの生徒が高校へ進学する。将来の進路を具体的に決めるのは 18 歳前後である場合が多く、比較的遅い段階で選択を行う。

授業では、教師の説明を聞き、知識を正確に身につけることが重視される傾向がある。近年は主体的・対話的な学びも取り入れられているが、依然として「正解を出すこと」が中心であると感じる。また、日本の学校は授業時間が長く、放課後には部活動に参加する生徒も多い。協調性や忍耐力を育てる点は日本の教育の強みである。

3　ドイツの教育制度の特徴

ドイツでは、基礎学校修了後の 10 歳頃に進路が分かれる。大学進学を目指すギムナジウムや、職業教育を重視する学校などに進学し、それぞれの能力や適性に応じた教育を受ける。

私は、10 歳で将来の方向性がある程度決まることに強い衝撃を受けた。日本ではまだ将来像が明確でない年齢であるため、その決断の早さに驚くと同時に、早い段階から専門性を高められる合理的な仕組みであるとも感じた。

また、ドイツでは授業中に積極的に発言することが評価の対象となる。自分の意見を持ち、それを論理的に説明する姿勢が求められる点は、日本との大きな違いである。さらに、学校の授業時間は日本より短い日も多く、午後の時間を家庭学習や課外活動に充てるなど、自立を促す仕組みが整っている。

４　言語と教育の関係

今回の交流事業では、日本人とドイツ人がコミュニケーションを取る際に共通言語として英語が使われた。ドイツ人同士はドイツ語、日本人同士は日本語を使ったが、両者を繋いでいるのは英語であるため、世界で活躍するためには言語能力が重要であると強く感じた。教育制度の違いだけでなく、英語の教育の充実も日本が国際社会で成長していくための大きな課題であると考える。

５　まとめ

日本とドイツの教育制度を比較することで、それぞれが育てようとしている力の違いが見えた。日本は協調性や基礎学力を重視し、ドイツは主体性や発言力、専門性を重視している。私は今回の交流を通して、自ら考え、発言する姿勢を学びたい。そして、日本の教育の良さを大切にしながらも時代に合った学び方へと自分自身も変化していく必要があると感じた。

浴衣と花火の体験

「城」の存在意義～熊本市とハイデルベルク市を比較して～

⑬R.H（熊本市立必由館高校１年）

１　はじめに

私は、今回ハイデルベルク市との青少年国際交流事業への参加を通して、見学に行った熊本市の熊本城とパートナーのハイデルベルク城は、相違点がたくさんあるということがわかった。最初はどこの国の城も同じような存在意義があると思っていたが、今回の国際交流中、パートナーと話しているうちに城に対するその国の人達の思いや考え方が違うということに気付いた。では、具体的にどのようなところが違っていて、同じように扱われている部分はないのだろうか。

２　城に対する考え方の違い

熊本城はくまもとのシンボルのように扱われてきた。そのため９年前の熊本地震の後、大きく崩れた熊本城を復元しようと住民が資金提供をした。しかし、戦争で破壊の悲劇により廃墟となってしまったハイデルベルク城はそのまま残されている。建物というのは崩れてしまったら修復したり、建て直したりするはずだ。であれば、ハイデルベルク城も熊本城のように元々の綺麗な状態を保つため修復するはずだ。私はそれを疑問に思った。そこで建て直さない理由をパートナーに聞くと、ハイデルベルク城は第二次世界大戦で壊れたため戦争後は建て直せるくらいのお金がない状況だったことや、戦争の歴史を繰り返さないための遺産として残されていると教えてくれた。

３　歴史

熊本城には昔戦時中にお腹が空いたため周りに銀杏の木を植え、実を食べられるようにしたという話があるが、ハイデルベルク城もそのような話があると話してくれた。それは、ハイデルベルク城内にあるリングを噛み切ることができたら人間で、噛み切ることができなかったら魔女だという話だ。その話ではリングはメタルでできており、メタルは魔女にとって毒なためそのような話ができたらしい。当時魔女は、良くないものとして扱われていたた

出典：熊本城総合事務所「フォトギャラリー」熊本城ホームページ https://castle.kumamoto-guide.jp/galleries/detail/865

め魔女を駆除しなければならないという考え方でこの話ができたそうだ。では、なぜどの国にも神話はあるのかを疑問に思い調べてみることにした。すると、じぶんたちは今どこにいるのかまた自分は何者なのかそしてどう生きるべきなのかを明らかにするためだということがわかった。つまり、城に神話があるのは歴史を知るためではないかと考えた。

４　熊本城とハイデルベルク城の共通点

熊本城とハイデルベルク城の共通点は地元の人達とのつながりにある。私は自分が幼い頃、熊本城によくピクニックをしたり遊びに行ったりしていた。また、小学校の遠足でもみんなで歩いて熊本城に行っていた。つまり、私達にとって熊本城は遊んだり自然に触れたりすることのできる関わりの多い場所なのだ。では、相違点の多いハイデルベルク城はそのようなことはしないのではないかと思い、またパートナーに話を聞いた。すると予想外にも自分たちと同じように休みの日に友達とピクニックをしにいくことや、ベンチもありご飯を持っていくときもあるということを教えてくれた。このことから、シンボルと遺産という違いがある城でも、同じような関わり方をしている点があることを知り嬉しく思った。

５　まとめ

パートナーから聞いた話を通して、ハイデルベルク城と熊本城の存在意義の相違点や共通点を把握し、ドイツに行くことができるようになった。これらの知識を持って来年ドイツに行くことで納得できることが増え、理解をしやすくなるのではないかと思う。また、新しいことを聞き、知識を増やし今度はパートナーやその家族に熊本城の歴史を伝えられるようにし、パートナーたちにも相違点や共通点をわかってもらいたいと思った。

参考文献

[1] 熊本城総合事務所「熊本城の歴史」(https://castle.kumamoto-guide.jp/history/, 2026 年 1 月 10 日最終閲覧)

交流を通して見えた英語教育の課題

⑭S.F（真和高校 1 年）

1　はじめに

私は、この交流プログラムを通して達成したい目標として以下の 2 点を掲げた。

① 自分の英語力を向上させること。

② 自分の将来の夢の方向性を明確にすること。

今年度の報告書では、主に①の目標に焦点を当て、英語教育の観点から、交流を通じて感じたことや考えたことを述べる。

2　言語の壁

私がまず衝撃を受けたことは、自分の英語力の低さである。私はこのプログラムに参加するまで、自分は英語でのコミュニケーションが得意だと思っていた。しかし、実際にドイツの学生と話すと、英語を聞き取ること、理解することに必死で自分から何かを話すことはできなかった。それに対して、ドイツの学生は全員が流暢に英語を話すことができていた。そこで私は、同年代の学生であり、第一言語が英語ではないという共通点があるにも関わらず、なぜ日本の学生とドイツの学生の間では、これほどまでに英語力に差があるのかという疑問を持った。そして、その主な原因として日本とドイツの英語教育の違いが挙げられるのではないかと考えた。

美里町でのモルック体験

3　日本の英語教育

日本の英語教育は「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能を重視している[1]。日本人の大半が中学校から本格的に英語を学び始め、大学教育まで含めると約 10 年間も英語を学び続けている。しかし、長期間にわたって英語学習を行うカリキュラムが組まれているにも関わらず、グローバルビジネスで通用するレベルの英語力を持つ日本人はわずか 7%である[2]。これは、グローバル人材の育成が求められている現代社会において大きな課題であると言える。私は、日本人の英語力の低さの原因となっているのは日本の英語教育にいくつかの問題点があるからだと考える。本報告書では私が考える以下の 3 つの問題点について述べる[3][4]。

（１）受験重視の教育の弊害

文法や和訳、単語の勉強量が多く、実践には向かない思考回路が定着してしまう。また、「間違い＝減点」という意識になることで、実際の会話などで間違いを恐れ、知識のアウトプットの機会が減ってしまう。

（２）発音の訓練不足

個別に発音が指導される機会が少ないため正しい発音を身につけることができない。単語が持つ音を聞き分ける能力が身につきにくいため、ネイティブとの会話での聞き取りが困難である。

（３）十分な知識や経験を持った教員の不足

授業の中で正しい英語の使い方、発音などが習得できない。

学校内で、高いレベルの英語に触れる機会が少ない。

4　ドイツの英語教育

ドイツの一般的な英語教育は８～９歳(小学３年生)頃から始まる。教師はアルファベットの書き方や文法を教えるのではなく、初めから英語を使って生徒に質問や指示を出す。つまり、ドイツの英語教育の初期段階では「聞く・話す」の２つの技能を重視している。また、１２～１３歳(中学生)頃になると学校にバイリンガルクラスが設けられ、特定の教科を英語で学ぶことができる。このように、ドイツでは文法や単語を学ぶことで英語を習得するのではなく、常に会話に近い形で英語に触れ、知識のアウトプットの機会を増やすことで英語を習得している[5]。

5　まとめ

英語力の低い日本の英語教育は、知識を詰め込む「インプット重視」なのに対し、英語力の高いドイツの英語教育は、実践に重きを置く「アウトプット重視」であることがわかった。国際社会の急速なグローバル化が進む今、島国である日本はグローバル人材の育成がより重要な課題となっている。私は、このプログラムと本報告書を書くにあたっての資料の収集を通して、日本人の英語力を上げるためには知識のインプットと共に、実践的な会話の向上を目指したアウトプット重視の英語教育を行う必要があると感じた。

6　次年度に向けて

来年の夏は私たちがハイデルベルク市に派遣される。衣食住の文化や伝統、慣習が異な

る国を訪問することで得られる発見や学びを自分の将来へ生かせるよう、英語での会話や現地の人との交流において自発的な行動をしていきたい。

　そのためにも、次年度の派遣までに自分の英語力が伸びるように、洋画や洋楽に触れる機会を増やし、使える語彙を増やしていきたい。

参考文献

[1]文部科学省「今後の英語教育の改善・充実方策について　報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」文部科学省ホームページ
(https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352464.htm, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)
[2]株式会社レアジョブ「66 万人のデータから日本人の英語スピーキング力の実態を調査 グローバルビジネスで通用するレベルの英語力を持つ人材は 7%」(2024 年 6 月 17 日)
(https://www.rarejob.co.jp/news/progos/2024/0617/26173/, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)
[3]株式会社やる気スイッチグループ「日本の英語教育の問題点は？海外との比較と課題をカバーする方法！」(2023 年 6 月 26 日)
(https://www.winbe.jp/column/column_16/, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)
[4]株式会社明光ネットワークジャパン「日本の英語教育の問題点は？国際比較とこれまでの変遷について紹介」(2022 年 7 月 25 日)
(https://www.meikokids.jp/contents/column/14, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)
[5] 水谷友香理「ドイツの英語教育に見る早期英語教育」尼崎市ホームページ
(https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/860/mizutani1.pdf, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

「食文化」がもたらす愛と感謝について

⑮K.F（熊本信愛女学院高校１年）

１　はじめに

私は、このプログラムを通して“愛”と“感謝”について深く掘り下げ、学んだことや感じたことを自分なりの表現で周りに共有し、共により良くなることを目標とした。他者を敬い、奪い合うことのない平和な世界を築くことは、この地球に住む自分に課せられた使命でもあると考えるからだ。8 歳の頃、フランスやイタリアへ短期留学した際、ピッツァやジェラートなど日本にはない“美味しさ”を知り感動したこと、そして陽気で明るく親切に接してくれた現地の人々のことが忘れられない。国が違えば文化も違い、食も違う。けれども、人の優しさに触れたときに感じる心の温かさは誰もが共通していると感じる。私はこのプログラムでは、特に「食」について掘り下げながら学びを深め、“愛と感謝”について探求することにした。

２　体験から感じた「感謝」

金峰山での研修中、スタッフの方々が食事を提供してくださり、とても親切にしていただいたので、私は心地よく過ごすことができた。食事の際、私は箸を使って食べたが、パートナーはスプーンやフォークを使っていた。これは周囲の環境の影響もあると思うが、互いの国や家庭で信仰している宗教の違いも関係しているのではないかと考えた。私自身は熱心な仏教徒ではないが、家族単位では代々仏教に親しんでおり、ご先祖様の供養などを行ってきた。一方、進学した学校ではキリスト教カトリックの教えを大切にしており、授業を通して触れる機会も多いため、なんとなくではあるがキリスト教についても理解できるようになった。“食事をとる”という同じ行為であっても、宗教の違いによって使用する道具が異なるのだと考えた。

３　箸と食文化から学ぶ「感謝」

そこでまずは自身が使う“箸”について調べてみた。すると、箸は日本にとって生活の中に溶け込んだ必需品であると同時に、精神に根付いた非常に重要な道具であるということを知ることができた。日本では、生まれて間もない頃に“お食い初め”という儀式で、一日に三度行う食事で初めて箸を使う。そして、葬儀ではお骨を箸で拾い上げる。昔から箸先は人のもの、天部分は神様のものだとされており、箸を使う事により神様に

感謝し、人と神様を結ぶことができる道具だと考えられていた。[1]

私は食べ物を頂く際、必ず“いただきます”と言う。今回のプログラムで知り合ったパートナーにも食事の始まりには“いただきます”と言って食べることを教えた。この“いただきます”は食材になった生き物のいのちに感謝し、頂くという意味である。また食事の最後には“ごちそうさま”と言い、おもてなしへの感謝を表すことを改めて知った。この２つの言葉と一緒に手を合わせる“合掌”の作法は感謝の気持ちを表す動作である。[2]

さらに食事に用いる道具で世界を区分してみると、手掴みで物を食べる手食文化圏(東南アジア、中近東、アフリカ)が約４０％、ナイフ・フォークを使用するカトラリー文化圏(ヨーロッパ、アメリカ、ロシア)が約３０％、お箸を使う箸食文化圏(日本、中国、台湾、韓国、ベトナム、タイ、シンガポール)は世界の約３０％で、意外にも幅広く東アジア一帯に広がっている。また、「自分だけの箸」を決めて食事をするのは日本だけの風習で、他の箸食文化の国々には見られないスタイルだ。日本で箸が使われるようになったのは諸説あり、私が特に気になった背景は飛鳥時代に中国から遣隋使が持ち帰った文化であることだ。同じ“箸”でも日本のものは先端が細く短い。器に口をつけて食べる料理（味噌汁やラーメンなど）が多いため、食べやすくする工夫である。[3]

中国では、日本のものと比べると長く太い。食卓で料理を大皿に乗せ各自でとって食べるので、遠くのものもとれるように長くなったと考えられている。[3]

韓国の箸は、日本と中国の中間くらいの長さで大きな違いとしては、木製ではなく金属製である。戦争が行われていた際木製よりも金属製のほうが壊れにくく、衛生的であり、また、毒による暗殺が行われていた歴史的背景から、毒性を見極めるために銀製の食器が用いられていた名残であるともいわれている。[3]

このように同じ“箸”でも国によって長さや素材が違うのも面白いと感じた。そして日々何気なく行っていた“食べる”という“体験”は互いの文化の違いに気付くことができる誰にでもすぐできる身近な“体験”で、それらの体験は異なる宗教、国を乗り越え互いを敬い感謝の心に繋るものなのだと、私は考える。

４　「愛」とは離れることで気付くもの

金峰山での研修時、私は初めて“ホームシック”になり、家族と離れるという体験が寂しさや心細さを感じさせるものだと知った。普段当たり前のように一緒に過ごしている家族の存在は、私の心をいつも笑顔にしてくれているのだと感じた。

数日後、長崎の原爆資料館を訪れ、戦争で犠牲になった街や人々の悲惨な体験を目にした。家族と二度と会えなくなったこと、当たり前を強引に奪われたこと、生きたかっ

たのに生きられなかったこと、どれも痛く辛かったであろうことを想像し、今自分が平和に暮らせることはこうした悲しい歴史の上に成り立っているのだと強く感じた。

　そして、この二つの体験から、「愛」とは普段の何気ない日常の中にあって、それが身近にあるからこそ気づきにくいものであり、離れたり失ったりして初めて気づけるものでもあると結論づけた。ただ、失うことはとても悲しいことなので、当たり前だと感じることほど大切にしなければならないと私は考える。

そうめん流し（高千穂）	箸の使い方をパートナーに教えた	ラーメン屋「一蘭」にて
ラーメンミュージアムにて	一緒に作った団子	一緒に作った手巻き寿司
お盆の準備を祖父と	高千穂神社にて	金峰山で頂いた食事

5　まとめ

今回初めてこのプログラムに参加し、より良い関係性を築くコミュニケーションには英語力が必要だと強く感じた。パートナーは９月から日本語を勉強するそうだ。来年ドイツに来た時には私の会話が今よりもっと聞き取れるようにする、と言ってくれた。私は英語を話すのは苦手だったが、パートナーのおかけで話す事に抵抗がなくなったので、楽しくコミュニケーションをとることが出来た。パートナーはアニメにも詳しく、一緒に絵を書き、日本のアニメの映画を見に行った。日本のラーメンが好きだと言ってくれたので有名なラーメン店に行き、夏はそうめん流しという文化があることを伝えたくて一緒にそうめん流しやお団子を作った。

「食」は、異なる文化や宗教間においても相手を知りあえる効果的な手段である。来年は自分たちがドイツに行く際は、大変なことも沢山あると思うが、予想以上に楽しいことも待っているとも思う。人と話す事が大好きなので、たくさんのものと触れ合えるよう、今まで以上に熱心に英語に取組み、自分の伝えたいことが最大限に発揮できるように残り一年で学んでいこうと考えている。

世界には私の知らない事や見たことの無い景色が沢山あることを知った。それに気付けてよかった。

最後にこのプログラムを体験した事で、感謝とは、人や自然が受けた恵みや厚意に対して「ありがたい」と感じる気持ちであり、その気持ちを相手に伝えることを意味することだと私は考える。

参考文献

[1]銀座夏野「お箸の起源」(https://share.google/5NonGGgpyx85nZw0K, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[2]1 万年堂出版「ルーツは仏教「いただきます」の深くて大切な意味とは」(2017 年 10 月 27 日)(https://share.google/VXJAmHovYjszzWogB, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[3]岩多箸店「箸屋ブログ　お箸の歴史はいつから？」(2020 年 7 月 31 日)(https://share.google/sszr5QGP17iLA89qE, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

観光を通して分かった平和

⑯Y.F（熊本県立東稜高校 1 年）

1　はじめに

今回の交流事業を通して、私たちは熊本県内や長崎市内の様々な史跡や観光地を訪れた。そのような「観光体験」によって、私たちは仲間との友情を深め、多くの絆を育むことができた。同時に、美しい景観に触れることで、心に落ち着きと安らぎを感じた。本レポートでは、「観光」が持つ効果の中でも、特に平和への貢献に注目し、自分の体験や調べたことをもとに考察していく。

2　観光の効果

まず初めに、私は観光の効果について詳しく調べることにした。近年、多くの外国人観光客が日本を訪れている。実際に、2024 年には約 3700 万人の外国人観光客が日本を訪れた[1]。年々、海外から日本への観光客は増加傾向にある。それに伴い、オーバーツーリズムなどの社会問題も発生している。しかし、観光には様々な効果がある。まず、観光がもたらす効果として、個人レベルでは心身のリフレッシュやリラックス、教養や知識の向上による視野の拡大などが挙げられる。一方で、社会レベルでは、地域経済の活性化や相互理解、平和への貢献といった効果があると考えられる。今年 2025 年は、終戦から 80 年が経過する。そこで、観光の中でも特に「平和への貢献」に焦点を当て考えてみる。

3　観光は平和へのパスポート

観光と平和の繋がりとは、観光を通じて他者の文化理解を深めることで、相互理解を推進し、平和な社会の実現に貢献することだと考えられている。そこで、国際連合は「観光は平和へのパスポート（Tourism;Passport for Peace）」というスローガンを作成した[2]。これは、観光は単なるレジャー活動を超え、国際的な相互理解と平和構築に貢献できるということを表している。私たちも、ドイツのハイデルベルク市との交流で、観光を通して国際理解を深めることができた。例えば、阿蘇や熊本城などをパートナーと一緒に行動しながら、英語で紹介するなど、意見交換をすることで多くのことに気づくことができた。このように、観光は単なるリフレッシュだけではなく、国際交流や文化交流にも繋がるということがわかった。つまり、観光により交流が深まり、相互理解が進むことを実体験できた。

4　ナガサキから学んだこと

私たちは、今回の交流事業で長崎市内を訪れた際に、長崎原爆資料館を見学した。私は以前、小学校の修学旅行でも原爆資料館を訪れたことがある。しかし、今回はその時とは感じるものが異なった。館内には原爆投下直後の長崎の街の惨状を再現したコーナーがあり、脚の大きく折れ曲がった給水タンクや浦上天主堂の残骸の一部など、原爆による被害を受けたものが大切に保管されながら展示されていた。実物の被爆資料は、写真などの資料で見るのとは異なり、当時の人々の苦しみや悲惨さがより強く、改めて平和の大切さについて考えさせられた。その被害の大きさは言葉ではとても表現しきれなかった。今回はドイツ人パートナーと一緒に見学をした。私のパートナーは、昨年の歴史の授業で広島と長崎に原爆が投下されたことを学んでいた。近年では、2023 年に広島で先進国首脳会議が開催されたことで、原爆ドームなど広島や長崎に対する国際的な認知度が高まっている。そういった影響もあり、国際観光文化都市である長崎市には外国からの観光客が多く訪れている。2024 年には、約 80 万人もの観光客が長崎原爆資料館を訪れた。これは、長崎県が発表している主要観光施設の中では最も多い観光客数である。[3]このことから、日本人だけではなく外国人においても平和や原爆への関心が高まっていると考えられる。私たちも平和について学ぶことができた。

5　No more Nagasaki

第二次世界大戦当時、日本とドイツは同盟関係にあった。しかし、戦争の帰結として両国は敗戦を迎えることとなった。ドイツでは今でも街中に多くの戦争遺跡が残されている。私たち日本人は、日頃生活している上であまり平和について深く考える機会は少ないと思う。そのため、ドイツのように日頃から平和の尊さについて考えるのは、とても大切なことだ。終戦から 80 年となる今でも、世界各地で戦争や紛争が発生している。日本は唯一の被爆国であり、私たち一人一人が世界に向けて核の恐ろしさや平和の大切さを発信する必要がある。今年、被爆者の人口は初めて 10 万人を下回った。高齢化が進み、被爆者から直接話を聞く機会は年々減少している。だからこそ、私たち若い世代が想いを受け継ぎ、次の世代へ繋ぐ必要がある。

6　平和の形

国によって歴史の捉え方はさまざまである。例えば「原子爆弾の投下は必要だったのか」という問いについては、今も国や立場によって意見が分かれている。アメリカでは、原爆投下を戦争終結の象徴としている人もいる。一方で、日本では降伏が目前に迫ってい

たにもかかわらず、多くの市民が犠牲となったことから必要ではなかったとする見方もある。もちろん、全ての人がこういう考えではなく、捉え方はそれぞれである。つまり、平和の捉え方は国や地域、歴史的背景によって大きく異なり、平和には一つの正解や普遍的な形は存在しない。だからこそ、私たちが多様な価値観の中で、今回のように国境を越え「平和とは何か」を問い続けることが重要である。今回のように国境を越え、友情を育み、何気ない会話や笑い合う時間を過ごす。そんな時間こそが、私は平和の形だと考える。

7　まとめ

今回の交流と本レポートを通して、観光と平和が大きく関わっていることがわかった。私は、外国人と共に行動しホームステイを受入れることで、初めて国際交流を経験した。そこで、新たな視線から物事を見ることができた。資料館や熊本城などを観光して、日本でしか学べない文化や歴史を知り、意見を交わし共に見学することで、私たちはお互いに高めあうことができた。このように、観光を通して言語や文化、価値観が異なっている者の気持ちが通じ、その結果、国際理解、平和に繋がるということを肌で感じることができた。この貴重な経験を今後にも活かしたい。

参考文献

[1]国土交通省観光庁「訪日外国人旅行者数・出国日本人数」観光庁ホームページ
(https://www.mlit.go.jp/kankocho/tokei_hakusyo/shutsunyukokushasu.html, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)
[2]国土交通省「運輸白書　第 1 節　国際観光年の意義」
(https://www.mlit.go.jp/hakusyo/transport/shouwa42/ind120101/frame.html, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)
[3]長崎県「主要観光施設等の利用者数」長崎県ホームページ
(https://www.pref.nagasaki.jp/uploads/2026/02/1770939330.pdf, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

ドイツと日本の価値観の違い

⑰K.M（熊本県立熊本北高校１年）

世界には多くの国があり、国ごとに文化や考え方は異なっている。日本では当たり前だと思っていることでも、外国の人から見るとそうではないことが多い。日本とドイツを比べてみると、そのような考え方の違いが分かりやすいと感じた。日本とドイツは、どちらも真面目な国というイメージがあるが、実際には大切にしていることや物事の考え方にさまざまな違いがある。本レポートでは、「仕事の考え方」、「家族」、「時間の意識」、「人とのコミュニケーション」という四つのテーマについて比べていく。

１　仕事に対する考え方の違い

日本では、会社のために一生懸命働くことが大切だと考えられてきた。残業をすることも多く、長い時間会社にいることが当たり前になっている場合もある。自分の生活よりも、会社や周りの人のために頑張ることが良いことだと考えられている。

一方、ドイツでは定時になると仕事を終え、早めに帰る人が多い。休みも比較的長く取り、自分の時間や家族との時間を大切にしている。ドイツでは、仕事は大切なものではあるが、生活を楽しむための一部だと考えられている。日本は働くことそのものに意味を見いだす社会であり、ドイツは生活を大切にしながら働く社会だと言われている[1]。

２　家族のつながりと支え方の違い

日本では、家族のつながりを大切にする人が多い。たとえば、親が年をとったときには、子どもが介護をするのは当たり前だと考える人もいる。現在は核家族が増えているが、それでも「家族で助け合う」という気持ちは強く残っている。

一方、ドイツでは家族に対する考え方が少し異なる。子どもは大人になると親から独立し、一人で生活するのが一般的である。また、高齢の親の介護についても、必ずしも家族が行うとは限らず、社会全体の仕組みや施設を利用することが多い。日本は家族の力で支え合う社会であり、ドイツは社会全体で支える社会だと考えられている。

３　時間に対する考え方の違い

日本はとても時間に厳しい国である。電車が１分でも遅れると謝罪があるほどで、友達との待ち合わせでも、数分の遅刻を気にする人が多い。私自身も、約束に遅れると相手に申し訳ないと感じてしまう。

ドイツも時間を守ることで知られているが、その意味は日本とは少し異なる。日本では、「まわりの人に迷惑をかけないため」に時間を守るという考え方が強い。一方ドイツでは、「相手との約束を守るため」に時間を大切にしている。どちらの国も時間を大切にしている点は同じだが、その理由には違いがあることが分かる。

4　コミュニケーションの違い

日本では「空気を読む」という言葉があるように、はっきり言わなくても、相手の気持ちを察することが大切だと考えられている。そのため、あえて直接言わずに、やわらかい表現を使ったり、沈黙によって気持ちを伝えたりすることも多い。

一方、ドイツでは思ったことをはっきり伝えることが良いとされている。意見が違っていても、正直に話すことで相手との信頼関係が生まれると考えられているためである。そのため、ドイツでは沈黙が「反対の意思」と受け取られることもあるという。このような違いは、日本とドイツの考え方の違いをよく表しており、とても興味深いと感じた。

5　まとめ

このように、日本とドイツを比べてみると、仕事、家族、時間、コミュニケーションという四つの点で、大きな違いがあることが分かる。日本は、集団を大切にし、周りとの調和を重んじる社会である。一方、ドイツは、個人の自由や自立を大切にする社会である。どちらの考え方が良いというわけではなく、それぞれの国の歴史や文化の中で生まれてきた価値観の違いだと言える。

6　最後に

私は今回このレポートを書いて、日本のよさと同時に課題にも気づくことができた。日本の思いやりの心はとても大切なものだと感じている。一方で、ドイツのように、自分の時間や意見を大切にする考え方も必要であると分かった。外国の価値観を知ることは、自分の生き方を見つめ直すきっかけになる。これから世界の人々と交流する機会が増えていく中で、互いのちがいを理解し、尊重し合うことが大切であると考える。

参考文献

[1]バークレーハウス語学センター「日本人が知らないドイツ文化」
（https://berkeleyhouse.co.jp/language/german/germanknowledge/,2026 年 3 月 14 日最終閲覧）

自国のマナーに固執することの必要性

⑱T.Y（熊本学園大学附属高校１年）

1　はじめに

一緒に食事をすることは、互いの文化を理解する上で、必要不可欠な行為だと思う。そこから、本報告書では日本とドイツとの食文化を通して、自国の食事マナーにこだわる必要性はあるのかということと異文化を尊重することの重要性を考察した。

フェアウェルパーティの時の様子

2　背景

今回、ドイツ人のパートナーを受け入れた際、１１日間ほど一緒に食事をとった。そこから、日本とドイツとの食文化やマナーの違いが多くあることがよく分かった。また、その違いについて疑問を抱くことも多くあった。例を挙げると、「先に食べていてもいい」と伝えても、家族が全員揃うか私の用事が終わるまで食卓で待っていたり、箸を使う時に器を持たずに食べたりするなど、日本とは異なる価値観やマナーが備わっていることが、少しの行動からでもわかった。また、その違いによって、不便そうにしている場面を見受けることも少なからずあった。それらを踏まえて、自国の食事マナーや食文化のみを重要視するのではなく、その国ならではのマナーや文化を知り実践してみることで、より一層異文化への理解が進むだけでなく、新たな発見や異なる視点からものを見ることができるようになるのではないかと考えた。また、なぜそうするのか、するべきなのかという理由を考えることで、日常生活でも応用できるのではないかと考えた。

3　日本とドイツの食文化とマナーの比較

はじめに、私が感じた日本とドイツの食文化やマナーの違いを比較することで、価値観や文化の違いを明確化し理解することができると考えた。そこで、私は下記の３つの視点から日本とドイツの食文化やマナーを比較した。

（１）食事のマナー

（２）食事で使用される食器類

（３）主食などの食文化

（１）食事のマナー

日本では器を持って食べるのに対して、ドイツを含めた多数の国々では、器を置いて食べる文化が根強い。日本では、昔から畳の上に座り、お膳に食べ物を乗せている。お膳から、食器を持たずに食べると、食べ物と口の間に距離があって食べにくいので、食器を持って食べるようになったとされている［１］［２］。

（２）食事で使用される食器類

日本では、一般的に使用されるカトラリーは箸に加えて、フォークやスプーンであり、様々な小皿と器を使い分けるのに対して、ドイツは、一般的に使用されるカトラリーはフォークやスプーン、ナイフであり、一枚の皿に料理を盛るスタイルである［３］。

（３）主食などの食文化

日本では、米を主食として食べるのに対して、ドイツではパンとジャガイモが多く食べられている。日本が米を主食として取り入れられてきたのは、稲の生育環境としてよい温暖湿潤な気候であり、水が豊かな場所であるというのに加えて、他の作物と比べて大量生産できたからであると言われている。対して、ドイツがジャガイモを主食として取り入れるきっかけとなったのは、プロイセン時代、オーストリアと戦争を繰り返す中で、国土が荒廃し農地も焼失したため、主食の麦の生産が減少したことから、麦と違い畑を荒らされても影響のない地中で育ち、気候も合うジャガイモに着目され、普及に努められたからだと言われている。また、ドイツでは、料理の手間をかけずに他のことに時間をかけたいという人が多いため素朴な料理が多く、ドイツは寒冷地であるため冬に備えた保存のきく食品が好まれて食べられている［４］［５］[６]。

４　提案

上記より、それぞれの国で様々な背景や理由があり、食事のマナーが完成して行ったことがわかる。そこから言えることとして、今日まで進化しながらもこの形で食文化やマナーが継承されてきたということは、その国に１番あったマナーであり、文化であることがうかがえるだろう。そのため、他国へ赴いた時、理解できない、おかしいと自分の考えだけでその文化を推し量り、自ら発見の機会を捨てるのではなく、その文化、マナーを実践してみることが重要だ。また、他国に赴いたとき自国の文化よりもその国のマナーや食文化を使用した方が、より一層、簡単にその国に触れられ苦い経験よりも楽しく上手くこと

が運んでいくと考えられる。したがって、私は異文化理解のために他国の文化に流されてみることを提案する。

5　まとめ

これまでの内容から、私は自国の食文化やマナーだけを重要視することは本質ではないと考える。ドイツと日本の食文化や食事マナーにはかなりの差があった。しかし、その違いには「理由や意味」があった。従って、他国を訪問する際は、観光や仕事、どんな活動であってもその国の食文化やマナーを理解した上で来訪し、実践することが重要だと考える。これは食文化やマナーだけでなく、各国独自のルールや宗教、考え方についても同じことが言える。また、国という単位だけでなく地域ごとの違いにも注視する必要がある。

「郷に入れば郷に従え」という言葉があるように、大事なことは、自分たちの文化や習慣にこだわり過ぎず、新たな行動に対し挑戦することだと考える。このような理解が広まれば、近年問題となっている観光客の観光地におけるマナー違反、ルール違反を減らすことにもつながるのではないか。来訪者は、自国にいる時と同じような感覚で過ごすだけではいけない。他国で滞在していることを認識し、他国が大切にしていることを深く理解し、「郷に入れば郷に従え」という言葉のとおり、新しい経験を得るチャンスだと思い、行動することが大切ではないかと考える。

6　感想

私は今回の受け入れを通じ、自分の文化と考えを深めることができた。また、今後より一層俯瞰的に物事を見る能力が備わったのではないかと感じた。この経験を活かして、柔軟な考え方をより一層できるようになりたい。

パートナーが私の祖母から箏を習う様子

参考文献

[1]レタスクラブ「なぜ日本人は食器を持ち上げて食事するの？ 食器を持ち上げない外国人との差に驚き」（2019 年 5 月 19 日）(https://www.lettuceclub.net/news/article/189789/, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[2]シェフくる「日本の食事マナーの基本とは？仕草と食べ方に分けてチェックしよう」（2026 年 3 月 19 日）(https://chefkuru.jp/media/useful/learn-food/1332/, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[3]日本金属洋食器工業組合「カトラリーの歴史はマナーの歴史」(https://www.youshokki.com/%E3%82%AB%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AA%E3%83%BC%E6%A4%9C%E5%AE%9A/%E3%83%86%E3%83%BC%E3%83%96%E3%83%AB%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%83%BC/%E3%82%AB%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E3%81%AF%E3%83%9E%E3%83%8A%E3%83%BC%E3%81%AE%E6%AD%B4%E5%8F%B2/, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[4]やまがたアグリネット（2022 年 2 月 16 日）(https://agrin.jp/crop/suito/q_and_a/shushoku.html, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[5]かのまた　まさお「ジャガイモはなぜドイツに広まったのか」no+e ホームページ（2021 年 1 月 4 日）(https://note.com/kanomatamasao/n/n7dc0f6be38e5, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

[6]SHARE DINE「ドイツ料理とは　特徴や伝統料理を合わせて解説」（2022 年 8 月 19 日）(https://sharedine.me/media/know-how/german-cuisine, 2025 年 8 月 22 日最終閲覧)

グローバルマインドを取り入れた生き方

⑲J.Y（熊本信愛女学院高校１年）

１　はじめに

今回の交流の中で日本とドイツの様々な文化や考え方の違いを知り、両国のそれぞれの良さを改めて感じることができた。パートナーとの交流を通して、日本では当たり前に目にするものでも、日本人とは異なる見方があることに気づいた。その異なる見方から生まれた疑問や新たな発見は、私の認識を大きく変えるほどの価値をもたらすものだった。また、交流の中で特に感じたのが、日本とドイツ間での「上下関係」の違いだった。この要素を今後日本で生きていく中で、日々の生活に取り入れることで、どのような効果が得られるかについて考察する。

２　上下関係

日本とドイツでの上下関係や組織文化の違いを示す調査や事例を探してみた。まず、日本の企業での階層的な構造として役職や年齢による上下関係を明確にする。主に、相手への敬意と配慮を取り入れたコミュニケーションである。仕事後の飲み会などが重要なコミュニケーションの場となる。つまり、上司と部下という関係の中で相手のスケジュールを把握し、積極的に会話を促す場を設けることが組織全体のまとまりや調和を重視している傾向にある。ドイツの企業では、日本のように階層的な構造は無く、フラットな関係を重視している。役職をそれぞれの役割と認識している。ドイツでは、仕事とプライベートは、しっかりと分けられており、個人や家族を優先する。また、上司と部下という関係であっても比較的にフラットである。例えば、下の名前で呼び合うのが一般的だそうだ。日本では難しいコミュニケーションであるが、そこには、多くのメリットがあると考えられる。その他にも、ドイツならではの上下関係のコミュニケーションには、日本と異なる特徴が存在している。[1]

３　直接的なコミュニケーション

ドイツでは、率直で直接的なコミュニケーションを好む。良いことも悪いことも遠慮なく自分の意見を伝えることができる為、誤解が生じにくい。

４　個人の尊重

ドイツでは、個人の能力や裁量が重視されている。これは自分の意見を相手に積極的に発言し、伝えることが逆に評価対象となるのでとても良い。

５　成果主義

ドイツでは、1 人でどれほどの成果をあげたかで重視する傾向が強く、年齢や経験など関係なく、自分自身の実力や能力で勝負することができる。

上記はいずれも、私が実際にハイデルベルクの団員との交流の中で最初に感じたことでもある。日本の団員は、基本的に指示を受けて動くことが多い。一方で、ハイデルベルクの団員は、目上の人にも関係なく自分の意見をはっきり伝えていた。この経験からもドイツでは、上下関係がフラットなのだと感じた。

６　性格

このように上下関係の面だけでも日本とドイツ間では大きな違いがある。次は、性格について整理する。まず、日本人の性格として一番に挙げられるのは謙虚さである。日本人が勤勉な性格であることは世界でもよく知られており、相手を尊重する謙虚さは日本人の美徳とも言われている。

一方で、ドイツ人は、自分の意思をしっかりと持っており自己主張ができる。特に秩序を重んじ、ルールを守ることを大切にする傾向がある。私のパートナーも「あなたはどうしたいですか？」と聞いたら必ず「私はこうしたい！」と答えが返ってきていた。

７　好奇心

他にも、ハイデルベルクの団員と関わっていく中で感じたことは、好奇心の強さだ。私のパートナーは、熊本の団員が企画した行事に対して積極的に参加していた。その中で、何も言わずとも率先して片付けを手伝ってくれた。私は彼女の行動に驚き、手伝わせていることに対して申し訳なさを感じていた。しかし、彼女は、「このような素晴らしい体験を設けてくれたことがとても嬉しい！」と感謝を示していた。私は、彼女のこのような行動に対して、新しい事柄に対する強い興味や、周囲の人との関わり合いを希望していることに気づいた。常に、ハイデルベルクの団員は、どんなことに対しても「これをやってみたい」「知りたい」と、強い興味を持っているのが印象的だった。時には、積極的な質問に戸惑うこともあったが、彼らの強い好奇心を感じた。そこで、ハイデルベルクの団員の考え方について推測してみると日本人とは異なる捉え方もあり、私たち日本人団員の感性を刺

激する良い機会であった。そういった体験を通じて、私自身も日本の物事について興味(好奇心)が湧くようになった。日本においては、新しいことを取り入れることは、歴史的視点から見ると、外来文化を広め、国を強くする原動力として重要であると感じる一方で、知らないものに対して手を出すことに恐怖する認識がある。特に、日本は周囲の環境に対し常に意識を持っているため、「これをすることによって周りからどう思われるだろうか？」などとして捉えてしまうことがある。それは、「個人としてどうありたいか」よりも組織（環境）に対し意識していることが原因だと気づいた。これは、日本人の悪い癖とも言える。人と自分の間に境界線を引き、自分自身の意思を主張することでこのような課題を解決することができると考える。

８　考察

まとめると、これからの日常生活で取り入れていきたいと思うものが多くあった。その中で１つのキーワードとなっているのは、「主張」である。周囲の一人としての立場と当事者の立場から出来ることを１つずつ挙げてみる。まず、周囲の一人としての立場で出来ることは、対等な立場で相手を尊重することだ。自分が率直に感じた意見を強く主張することはよいことでもあるが、相手に対し意見を押しつけてしまう危険性もある。そこで、違いを排除するのではなく、容認し尊重することで、互いの主張がしやすくなる効果が生み出せるのではないかと考える。

次に、当事者の立場から出来ることは、自分の意見をより分かりやすく相手に伝えることである。文字に起こすとシンプルだが、日本人からすれば実践するとなるととても難しい。しかし、自分の意見をわかりやすく相手に伝えることで、相互理解が深まり、多くの考えが生まれ、大きな発展に繋がっていくのではないかと思う。

９　おわりに

日本とドイツ間では様々な面で違いが存在する。「違い」と聞くとあまり良い印象を受けることはないが、違いを知ることによって様々な面白い発見がある。私は、ハイデルベルクの団員達との交流を通して様々な違いを学ばせてもらった。例えば、上下関係に囚われず誰しも平等であることや、食事を作ってくれた人に対して感謝を言いに行くことだ。このような学びは、自国の文化、習慣に対する深まりや固定観念に囚われない柔軟な考え方を身につけるきっかけとなった。

私は、来年のドイツのホームステイでは、ハイデルベルクの団員が日本の団員から何かの学びを得てくれることを願っている。その為にも、日本の様々な文化、習慣について、

相手の家族が詳しく知ることが出来るようにしたい。そこで、生活の中で感じた些細な違いをわかりやすく伝えられるよう、これまで以上に互いの文化についての勉強しようと思う。互いの違いを知ることで、互いに学びを得ることができる。そして、それが大きな発展へと導いてくれる。

　だからこそ、新しいことを恐れず、自分から積極的に挑戦することで、自分の人生を向上させる新たな価値観との革新が生まれるのではないかと思う。

上の写真：ワンピース像巡り サンジ /下の写真：必由館高校での書道体験

参考文献

［1］西村 栄基「日本とドイツでこんなに違う！職場の人間関係の常識とは？」no+e ホームページ（2024 年 9 月 20 日）
(https://note.com/laufen/n/n52d046f83b2d?sub_rt=share_b, 2025 年 9 月 16 日最終閲覧)

より良い時間の使い方

⑳E.W（熊本県立東稜高校 1 年）

1　はじめに

私は今回の異文化交流を通して様々な発見があった。特に、お互いの日常について会話したことが、印象に残っている。そのとき、私は「日常の違い」を実感した。ドイツの方が日本より、プライベートタイムを多く確保できることがわかった。

2　学校時間や勤務時間の差

日本では、通常 15 時または 16 時まで学校がある。しかし、ドイツでは 13 時頃には学校が終わるというのだ。ただし、授業自体は日本と同じ、6 時間授業である。[1] また、ドイツでは、日曜日には全てのお店が閉められるというルールがある。それは、労働者が休息時間をとるためだ。すると年間で働く時間が大幅に違う。[2]

火の国祭りに参加する様子

その分、学生も大人も、プライベートタイムを多く確保できることが、示されている。[3] パートナーに、放課後の時間や日曜日はなにをするのか尋ねてみた。すると、放課後は趣味を楽しんだり、休憩をとったり、習い事に行ったりするそうだ。日曜日は特に、家族との時間を過ごしたり、芸術や自然に触れたりして、ゆったりとした時間を過ごしているらしい。

それに比べて、日本は忙しいイメージがある。自分のことをしたり、家族との時間を過ごしたり、ゆっくりしたりする時間があまりなく、公的な時間が多い。

3　プライベートタイムで得られる効果

まず、休憩時間が多いため、ストレスの軽減が図れる。また、様々な方向へ興味関心を持てる余裕ができる。そのため、趣味ややりたいことを見つけやすく、将来の道や世界が広がる。さらに、家族との時間が多いと、コミュニケーションを絶やしづらい。そうすると、家族間のトラブルが少なく、お互いを支え合える。

4　効率がいい点

公的な時間が少ないからと言って、やるべきことを適当に済ませているのではないか、という心配がある。では、例として、日本とドイツの英語力の違いを挙げてみよう。パートナーに、『ドイツ人は、みんな英語を話せるのか』という質問をした際、『英語を話せない人は、ほとんどいない』と答えた。対して日本は、世界的にみて英語力が低い。実際に、英語を母国語としない 116 カ国を対象とした 2024 年版「EF EPI 英語能力指数」では、ドイツは 10 位だった。それに対し、日本が 92 位という結果であった。[4] なぜかと思い、パートナーに『日常でも英語を使って話すのか』と尋ねると、『英語で話すのは、英語の授業の時だけだ』と話した。そこには、授業のやり方に根拠があった。

日本では、多くの場合、日本語で英語を解説して、文法を学んだりスペルを学んだりする。しかし、ドイツでは、授業中は常に英語で話すらしいのだ。その点に関して、新しい言葉が出た時、わからないのではないかという不安がある。だが実際には、ドイツの英語力の方が高い。また、読み書きよりも、話し聞くことの方がより多く使われる。

経済面でも、働く量は日本の方が多いが、ドイツの方が経済力は高いと言える。実際に『2023 年の世界の名目 GDP ランキング』では、ドイツが 3 位で日本が 4 位に後退した。[5] このことから、ドイツは効率がいいと考えられる。

5　まとめ

このように、ドイツは日本よりも時間をより効率よく使っていると思われる。家族時間や自分時間を持つことで、ストレスを軽減し、趣味関心に時間を使える。すると、視野が広がり将来につながる可能性がある。日本のように、丁寧に時間をかけることも時には大事だ。ただし、どれだけ効率よく時間を使えるかということも大事だ。

私には、小さい頃からの大きな夢がある。その夢を叶えるためには、日々の積み重ねが重要だ。今回の調査で毎日のタスクと夢に近づくための時間を効率よくこなしていきたいと感じた。さらに、無理をせず今しかできないことをしたり、家族との時間を大切に過ごしたりしたいと考える。そして、時間を大切にして、自分の人生をより充実させたいと思う。

手持ち花火を楽しむ様子

参考文献

[1]世界は言葉でできている。「ドイツの高校時間割（例）」（2014 年 4 月 9 日）(http://shaahs.seesaa.net/article/394186340.html, 2025 年 8 月 17 日最終閲覧）

[2]INOBER【ドイツから学ぶ】真の働き方改革とは」経営者・人事のための人事に関わるお役立ちマガジン(https://inober.com/hr_topics/topic_6, 2025 年 8 月 17 日最終閲覧）

[3]本川 裕『統計で問い直す　はずれ値だらけの日本人』星海社新書, 2025 年

[4]NPO 法人 RES「英語能力指数、日本は世界ランキングで過去最低の 92 位に」（2024 年 11 月 15 日）(https://edu-npo.com/news/202411_002/, 2025 年 8 月 17 日最終閲覧）

[5]世界とつながるグローバルメディア S セカイハブ「【2024 年最新】世界 GDP（国内総生産）ランキング（IMF）|日本はドイツに抜かれ世界４位に後退し、５位インドとの差もわずかに」(https://sekai-hub.com/posts/imf-gdp-ranking-2024, 2025 年 8 月 17 日最終閲覧）

【第５章】まとめ

熊本市団員は、令和７年（2025 年）８月１日から１１日までの１１日間、ハイデルベルク市団員をホームステイとして受け入れ、社会教育施設等での共同宿泊、日本伝統文化体験、平和学習、プログラミング体験など多様な交流プログラムを共に実施することにより、言語力のみならず課題発見力、相互理解に基づく協働姿勢、困難な状況への対応力を培った。最初は戸惑いの見られた団員も、日を追うごとに自ら積極的にコミュニケーションを図り、対話や共同作業に踏み出す姿が顕著となり、その成長スピードには目を見張るものがあった。

また、熊本市団員が作成した報告書からも、単なる国際交流ではなく、文化や価値観、教育制度などの違いを自ら考察する学びへと発展していることが明確に確認できる。特に、言語表現やコミュニケーションスタイルの違い、多文化社会における共生の在り方についての気づきは、本事業の目的である異文化理解や広い国際的視野を身に付けた青少年の育成に合致する成果である。

その一方で、熊本市団員の多くは、英語による対話力や即応的なコミュニケーションに課題があることを自覚しており、これは次年度のハイデルベルク市への派遣に向けた重要な示唆となった。次年度はハイデルベルク市団員の自宅にホームステイするため、今年度以上に英語で意思疎通を図り、自ら積極的に行動しなければならない場面が増えると想定される。語学力の向上に加え、今回の報告書で明らかとなった各自の課題を克服し、一回り成長した団員の姿を期待する。

熊本市教育委員会では、今回の受入を一過性の交流に終わらせないため、友好都市盟約締結から 33 年目を迎える本事業の継続的かつ発展的な推進と、相互訪問を通じた両市友好関係の次世代への継承に取り組んでいく。

最後に、今回の受入事業は多くの関係者の温かいご支援とご協力に支えられ、無事に終えることができました。ここに、学校関係者、関係機関、ボランティアの皆様をはじめ、支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

【付録１】熊本市団員研修資料（一部抜粋）

・第１回事前研修会資料（令和７年（２０２５年）６月２１日（土））

パートナー受入の心構え
コミュニケーションのヒント
ペアワーク①
パーソナルスペース
ペアワーク②
セルフプレゼンテーション
ペアワーク③
ボディランゲージ
ペアワーク④
パラランゲージ
声量
抑揚
スピード
を工夫しよう
自分の気持ちがもっと 相手に伝わりやすく なります。
言語
習慣や行動パターンの違い
コミュニケーションスタイルの違い
もちろん重要
言語
学んできて欲しいことはコチラ
習慣や行動パターンの違い
コミュニケーションスタイルの違い
異文化理解
国際的視野の習得
コミュニケーション文化の違い
コンテクスト (Context)
日本語にすると➡文脈・前後関係
ロー・コンテクスト文化
ハイ・コンテクスト文化
言わないとわからない
言わなくともわかる
このギャップが異文化の正体
コンテクスト(Context) 低➡高
日本
アメリカ
日本は超ハイ・コンテクスト文化
本音と建前
ツーカー
あうんの呼吸
お察しの通り
以心伝心
遠慮、謙遜
会話に見るコンテクスト
「今週の日曜日、文化祭の準備をするけど来られそう？」
Cさん
Dさん
2つのコミュニケーション
どっちが重要？
言葉
言葉以外
COMMUNICATION
どっちが影響力が強い？
メラビアンの法則
話している内容（言語情報） 7%
耳から入る情報（聴覚情報） 38%
目から入る情報（視覚情報） 55%
矛盾したメッセージが発せられたときに、人がそれをどのように受け止めるのかということを、実験を用いてまとめたもの。
言葉以外の４つのポイント
セルフ・プレゼンテーション
パーソナル・スペース
ボディー・ランゲージ
パラ・ランゲージ
言葉以外のポイント
見た目を整える
角度・距離 視線の高さ
笑顔・うなずき
気持ちが伝わる声

・第２回事前研修会資料（令和７年（２０２５年）７月５日（土））

JTB 旅の力を、ずっと、いつも。

令和7年度(2025年度)
熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業

【第2回事前研修会】

2025年7月5日(土)
熊本市中央公民館
熊本市教育委員会事務局　地域教育推進課

本日のアジェンダ

1. 語学研修(英語・ドイツ語)

2. 自己紹介文添削

～休憩～

3. 出し物決定・練習
（練習中に1人ずつ順番に呼んで、
自己紹介動画を撮影していきます 📷）

4. 事務連絡(7/26第3回研修会までの宿題等)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 2

---

1. 語学研修
【英語】4技能

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 4

---

1. 語学研修
【英語】フォニックス

フォニックス(Phonics)･･･英語の文字(スペル)と音(発音)の関係を学ぶ方法です。

なぜ、フォニックスが重要？
- 英語は文字と音が一致しないことが多く、カタカナ発音では通じにくい。
  [例]knight, psychology, debt, island
- フォニックスを学ぶことで、初めて見る単語でも読める・書けるようになる。
- 発音が正確になると、リスニング力も自然に向上する。

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 5

---

1. 語学研修
【英語】フォニックス

アルファベットの「名前」･･･読み方のこと。
[例]
A = 「エイ」
B = 「ビー」
C = 「シー」

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 6

---

1. 語学研修
【英語】フォニックス

アルファベットの「音」･･･その文字が単語の中で表す音のこと。

フォニックス一覧表

a	b	c	d	e	f	g
ア	ブ	ク	ドゥ	エ	フッ	グ
h	i	j	k	l	m	n
ハ	イ	ジュ	ク	ル	ム	ン
o	p	q	r	s	t	u
オ	プ	ク	ゥル	ス	トゥ	ア
v	w	x	y	z		
ヴ	ゥワ	クス	ィヤ	ズ		

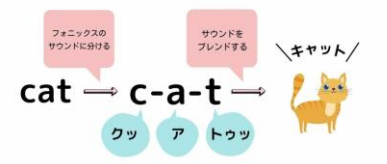
※カタカナ表記は異なる場合があります

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 7

---

1. 語学研修
【英語】フォニックス

英語は音読みの足し算。



copyright © JTB Corp. all rights reserved. 8

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　短母音(Short Vowels)

単語の中に1つの母音があり、子音に挟まれているときは短く発音される。

例:
a → /æ/(cat, hat)
e → /ɛ/(bed, pen)
i → /ɪ/(sit, big)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 9

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　長母音(Long Vowels)

母音が「自分の名前の音」で発音される。

よくあるパターン:
a e → /eɪ/(cake, name)
i e → /aɪ/(bike, time)
o e → /oʊ/(home, rope)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 10

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　ダイグラフ(2文字で1音)

2つの文字が組み合わさって1つの音を作る。

例:
sh → /ʃ/(ship, she)
ch → /tʃ/(chat, cheese)
th → /θ / または /ð/(think, this)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 11

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　ブレンド(Consonant Blends)

2つ以上の子音が連続して、それぞれの音を保ちながら発音される。

例:
bl(black)、st(stop)、gr(green)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 12

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　サイレントE(Magic E)

語尾の「e」は発音されず、前の母音を長くする。

例:
cap → /kæp/(短母音)
cape → /keɪp/(長母音)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 13

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　Yの音

Yが単語の最後にある場合、母音のように発音されます。

単語	発音	説明
happy	/ˈhæpi/	「y」は /i/（イ）と発音される
funny	/ˈfʌni/	同じく /i/（イ）
baby	/ˈbeɪbi/	「y」は /i/（イ）で、柔らかい響き

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 14

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　黙音(Silent Letters)

綴りにはあるけれど発音されない文字のことです。
英語では多くの単語に黙音が含まれており、以下のような文字が黙音になることがあります。

K:know, knife
B:thumb, climb
L:could, should
S:island, aisle
W:write, wrong
G:gnome, sign
H:honest, hour

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 15

---

1. 語学研修
【英語】フォニックスルール　CとGの発音ルール

C:e, i, y の前では /s/(cent, city)、
それ以外では /k/(cat, cup)

G:e, i, y の前では /dʒ/(giant, gem)、
それ以外では /g/(go, game)

copyright © JTB Corp. all rights reserved. 16

1. 語学研修
【英語】リズムとイントネーション

英語は「強弱のリズム」がある言語です。
重要な語(内容語:名詞・動詞・形容詞など)を強く、機能語(冠詞・前置詞など)は弱く発音。

私はそのお店に行きます。/I **want** to **go** to the **store**.

1. 語学研修
【英語】リズムとイントネーション

声の高低(ピッチ)の変化で、意味や感情を伝える。

上昇調(rising):疑問文(Yes/No)など
→ “Are you ready?”/準備できた？

下降調(falling):陳述文や命令文
→ “I’ m going now.”/もう行くね。

上昇下降調(fall-rise):驚き・ためらい・皮肉など
→ “Well…”/ええと・・・

1. 語学研修
【英語】Listening

聴解力向上には・・・

外国人との会話

音声知覚訓練

実践的なリスニング活動

Youtube等の無料学習教材も活用を！

1. 語学研修
【英語】Reading

Sometimes, we think that only big actions can change the world. But small actions, done by many people, can have a huge impact. For example, if one person picks up trash in a park, it may not seem important. However, if hundreds of people do the same, the park becomes clean and beautiful.

Another example is kindness. A simple smile or a kind word can make someone’s day better. These small actions create a chain of positivity. When people feel good, they are more likely to help others.

So, never think your actions are too small to matter. Every little thing you do can make a difference. The world changes not only through big events, but also through the small choices we make every day.

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Reading

私たちは、大きな行動だけが世界を変えると思いがちです。しかし、多くの人が行う小さな行動も、大きな影響を与えることができます。たとえば、1人が公園のゴミを拾っても目立たないかもしれません。でも、何百人もの人が同じことをすれば、公園はきれいで美しくなります。

もう一つの例は「親切」です。ちょっとした笑顔や優しい言葉が、誰かの一日を良くすることがあります。こうした小さな行動が、ポジティブな連鎖を生み出します。人は気分が良くなると、他の人を助けたくなるのです。

だから、自分の行動が小さすぎると思わないでください。あなたの小さな行動が、世界を変える力になるのです。

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Reading

読解力向上には・・・

語彙を増やす

英語の書籍を読んでみる

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Writing

第1文型(S + V)
主語(S)＋動詞(V)
動作だけを表すシンプルな文型。

Birds fly.(鳥は飛ぶ)
She runs.(彼女は走る)

1. 語学研修
【英語】Writing

第2文型(S + V + C)
主語(S)＋動詞(V)＋補語(C)
主語の状態や性質を説明する。

He is a teacher.(彼は先生です)
The sky became dark.(空が暗くなった)

1. 語学研修
【英語】Writing

第3文型(S + V + O)
主語(S)＋動詞(V)＋目的語(O)
動作の対象(目的語)がある。

I play soccer.(私はサッカーをします)
She reads books.(彼女は本を読みます)

1. 語学研修
【英語】Writing

第4文型(S + V + O1 + O2)
主語(S)＋動詞(V)＋間接目的語(O1)＋直接目的語(O2)
「誰に」「何を」を表す。

He gave me a gift.(彼は私にプレゼントをくれた)
She told us a story.(彼女は私たちに話をしてくれた)

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Writing

第5文型(S + V + O + C)
主語(S)＋動詞(V)＋目的語(O)＋補語(C)
目的語の状態や性質を説明する。

We call him Tom.(私たちは彼をトムと呼びます)
They made her happy.(彼らは彼女を幸せにした)

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Writing

和文を英文に訳してみよう！

問題1
彼は毎朝6時に起きます。
→(ヒント:現在形、習慣)

問題2
私は昨日、友達と映画を見ました。
→(ヒント:過去形、過去の出来事)

問題3
この本はとても面白いので、ぜひ読んでください。
→(ヒント:so that構文、勧め)

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Writing

問題1
彼は毎朝6時に起きます。
→(ヒント:現在形、習慣)
He gets up at six every morning.

問題2
私は昨日、友達と映画を見ました。
→(ヒント:過去形、過去の出来事)
I watched a movie with my friend yesterday.

問題3
この本はとても面白いので、ぜひ読んでください。
→(ヒント:so that構文、勧め)
This book is so interesting that you should read it.

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Speaking

日本人が最も苦手な技能は・・・「Speaking」

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Speaking

ペアワーク:英語で会話してみよう！
テーマ:別紙参照

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Speaking

【実習】くまもと観光ガイドに挑戦～熊本城～

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Speaking

【実習】くまもと観光ガイドに挑戦～阿蘇山～

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【英語】Speaking

【実習】くまもと観光ガイドに挑戦～いきなり団子～

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【ドイツ語】特徴

名詞に性がある(3つの性)
男性(der)、女性(die)、中性(das)の3種類。
例:der Mann(男の人)、die Frau(女の人)、das Kind(子ども)

格変化がある(4格)
主格(誰が)、対格(誰を)、与格(誰に)、属格(誰の)によって冠詞や形容詞が変化。
例:der Hund(主格)→ den Hund(対格)

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【ドイツ語】特徴

発音と綴りが一致しやすい
スペル通りに読むことが多く、英語よりも発音が予測しやすい。

敬語と親しみ語の使い分け
「Sie」は丁寧な言い方、「du」は親しい人向け。
例:Wie heißen Sie?(あなたのお名前は?) vs Wie heißt du?

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【ドイツ語】特徴

母音(Vokale)
a:明るくはっきり「ア」
e:短く「エ」、語尾では「ウ」に近い音になることも
i:はっきり「イ」
o:丸く「オ」
u:深く「ウ」

子音(Konsonanten)
v:多くの場合「f」の音(例:Vater=ファーター)
w:英語の「v」に近い(例:Wasser=ヴァッサー)
j:英語の「y」に近い(例:ja=ヤー)

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【ドイツ語】基本的な単語

日本語	ドイツ語	読み方
はい	Ja	ヤー
いいえ	Nein	ナイン
ありがとう	Danke	ダンケ
ごめんなさい	Entschuldigung	エントシュルディグング
名前	Name	ナーメ
私	Ich	イッヒ
あなた	Du	ドゥー

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【ドイツ語】簡単な文章

日本語	ドイツ語	読み方
私の名前は~です。	Ich heiße ~.	イッヒ・ハイセ~
私は日本人です。	Ich bin Japaner(in).	イッヒ・ビン・ヤパーナー(イン)
私はドイツ語を勉強しています。	Ich lerne Deutsch.	イッヒ・レルネ・ドイチュ

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

1. 語学研修
【ドイツ語】便利な言葉(マジックワード)

Bitte
(ビッテ)

用途	日本語訳	例文	説明
① 丁寧なお願い	~してください	*Bitte kommen Sie hierher.*(こちらに来てください)	「please」に相当
② どういたしまして	You're welcome	*Danke! – Bitte!*	感謝に対する返答
③ どうぞ	Here you are / Go ahead	*Hier ist Ihr Kaffee. – Bitte.*	物を渡すときや譲るとき
④ 聞き返し	何とおっしゃいましたか?	*Bitte?*	相手の言葉が聞き取れなかったとき
⑤ 質問の前置き	すみませんが…	*Bitte, wo ist der Bahnhof?*	丁寧な質問の導入

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

2. 自己紹介文添削
(参考)前回のメッセージ動画

前回R6年度派遣時のメッセージ動画

[redacted]

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

3. 出し物決定・練習
熊本市青少年交流団 役割

★リーダー[redacted]
★副リーダー[redacted]
★火の国まつりPR[redacted]
★おてもやんダンスリーダー[redacted]
★宿泊管理[redacted]
★フェアウェルパーティー進行[redacted]
★出し物係[redacted]
★いただきます😊 🙏係[redacted]

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

3. 出し物決定・練習
出し物の場面・目的

日付	場面	目的
8/2(土) 13:00-15:30	対面式 @金峰山自然の家 多目的ホール	・ 歓迎の意思表示 ・ 親睦を深める
8/10(日) 12:00-15:00	フェアウェルパーティ @市内中心部ホテル	・ 最後の想い出作り ※保護者も一緒に楽しめるものとする

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

3. 出し物決定・練習
出し物決定・練習

みんなのアイデアを持ち寄りましょう
↓
どのアイデア(方向性)で行くのかを決定しましょう
↓
具体的な実施事項・役割分担を決めていきましょう

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

4. 事務連絡
第3回事前研修会の宿題

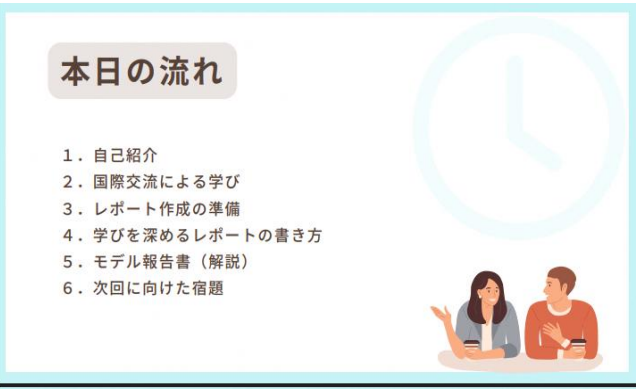
▼第3回事前研修会(7/26)までの宿題

宿題①
これまでのレポートを読むこと
『ドイツハイデルベルク市青少年交流事業』で検索 🔎
・令和5年度(受入)と令和6年度(派遣)報告書
https://www.city.kumamoto.jp/kiji00354146/index.html

宿題②
ハイデルベルク市について調べ、レポートのテーマを考えてくること

copyright © JTB Corp. all rights reserved.

・第３回事前研修会資料（令和７年（２０２５年）７月２６日（土））



「観光」の持つ多様な意義とは？

Value 1
地域を元気にする「成長の柱」

観光は、人口減少・少子高齢化を迎える地域にとっても、活力を保ち、発展するための“切り札”です。観光客が来訪することで、地域のお店がにぎわい、お金が入り、新たな人々との繋がりも広がります。

Value 2
人生を豊かにする「楽しみと学びの時間」

旅で得られる感動や発見は、人生のエネルギーになります。家族や友だちと楽しむだけでなく、新たな学びとの出逢いや地域との交流もできて、心の豊かさや働き方、生き方にも良い影響を与えます。

Value 3
自分の地域をもっと好きになる「きっかけ」

観光を通じて、普段は気づかなかった地元の魅力に気づけます。サービス開発や、来訪した観光客の評価によって「自分の地域ってすごい！」と誇りに思えることが、地域を元気にし続ける力になります。

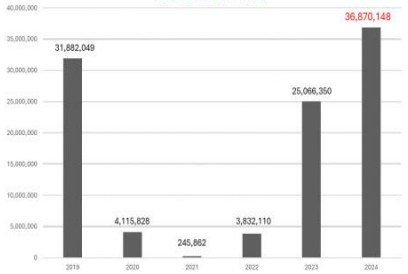
Value 4
世界とつながる「平和のかけ橋」

観光は、世界の国々や、そこで生きる人々への理解や友情を深めるきっかけになります。観光を通じてお互いの文化を知り、尊重し大切に思うことは、草の根から外交や安全保障を 支え国際社会の自由、平和、繁栄に繋がります。

世界で人気の旅行先「日本」

2024年には１年で3,600万人を超え、過去最高の数に！

訪日外客数の推移（年別）



※JNTO観光統計データより作図

世界の国から来訪・日本で消費

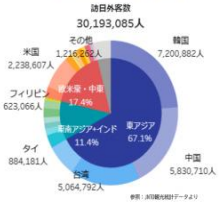
消費は、⑴ 宿泊費→⑵ 買い物→⑶ 飲食　の順で多い！
宿泊費：欧米豪
買い物：中国
飲食　：欧米豪・香港・シンガポール

娯楽等サービス費：欧米・オーストラリアを筆頭に
成長率が高いため、旅行者の嗜好が「体験型消費」にシフト

訪日外国人旅行消費額の費目別構成比

参照：観光庁インバウンド消費動向調査

訪日外客数の内訳（国別・地域別）



参照：JNTO観光統計データより

お金を使っているのは…
1位 中国　2位 台湾　3位 韓国
4位 米国　5位 香港

2．国際交流による学びとは？

皆さんは今回の国際交流で
何を経験し、何を学びたいですか？

国際交流による学びのテーマ例

Why

topic 1
文化・価値観の違いを探る

国際交流ではまず「文化の違い」がいちばん身近な学びになります。習慣や日常スタイル、時間の感覚など、「あれ？なんで？」と思ったこと、「日本では当たり前だけど、ドイツでは違うこと」や、「その違いから見えてきた相手の価値観」を探ってみましょう。「違い＝面白い！」という視点を大切に。

- 食文化の違いと健康意識
- 時間感覚・マナーの違い
- 習慣と宗教・伝統行事の違い　…等

topic 2
平和・共生を考える

ハイデルベルクも熊本も、歴史の中で戦争や自然災害を経験してきました。過去から学び、今の自分たちがどう行動できるかを考えてみましょう！
「平和を守るってどういうこと？」「違う国の人とどうやったら仲良くなれる？」など、自分の気づきや体験をもとに“共に生きる”とは何かを掘り下げてみましょう。

- 若者がつくる平和の形とは
- 戦争の記憶を未来へ伝える方法
- 多文化共生のまちづくり　…等

国際交流による学びのテーマ例

Why

topic 3
情報・テクノロジーと交流を探る

デジタル技術によって、私たちは世界中の人と気軽にメッセージを送り合える時代に生きています。熊本とハイデルベルクの高校生も、SNSや翻訳アプリを使えば、国境を越えて簡単につながることができます。必要な情報や、ドイツと日本のデジタル技術を比較してみましょう。デジタルデバイス等を「使いこなす」だけでなく「使い方を問う」等、多様な視点を養いましょう。

- 日本と海外のSNSの使い方、共通点と違い
- 翻訳機に頼ると何が失われるか？
- メディアリテラシーの違い　…等

topic 4
生活・教育・社会制度を比較

学校の授業、進路の考え方、アルバイト、家庭でのルール等…日常の生活のなかに、日本とドイツの違いはたくさんあります。「どうしてそうなってるの？」を考えると、社会の仕組みの違い等が見えてきます。「自分たちと違ってドイツの高校生は〇〇している。」「もし自分達が日本の日常でそれを取り入れたら？」等の視点で考えると、提案や比較のあるレポートにできます。

- 日本とドイツの学校生活や進学意識の違い
- 両国の若者のお金事情（使い方・アルバイト）
- 家族との過ごし方の文化差　…等

国際交流による学びのテーマ例

Why

topic 5
自分自身の視点を深める

交流の中で一番心に残るのは、「自分がどう感じたか」「何に驚き、何に気づいたか」ということです。“他人を知ることで、自分が見えてくる”そんな体験は、成長に繋がる気づきです。「自分の“当たり前”がくずれた瞬間」や「言葉が通じなくても伝わったこと」など、感情が動いた体験を振り返ってみましょう。

- 異文化に出会って気づいた“自分の当たり前”
- 「逆カルチャーショック」からの学び
- 世界から見た“日本”　…等

topic 6
自由に考える

国際交流の中で、「これは自分だけが気づいたことかもしれない」「もっと深く知りたい！」と思えた瞬間があったら、それが立派なレポートテーマになります。既存の枠にとらわれず、自分の興味・体験・驚きを起点にして、オリジナルの問いを立てることが最大の探究です。

3．レポート作成の準備

“たくさんの“Why”を集めて整理しよう”

Step 1：交流の中で感じた「なぜ？」を書き出す・書き留めておこう！

3．レポート作成の準備

Step 2：集めた「なぜ？」をKJ法を使って同じカテゴリに分類してみよう！

KJ法とは、いろんな意見や気づきをカードやふせんに書き出して、整理する方法です。
情報が整理されて、「今の自分が何に一番ひっかかっているか」が見えてきます
グループに分けることで、「問いのかたまり」が生まれ、テーマの候補が浮かんできます。

Point1
メモした「なぜ？」や「気づき」を付箋に書き写す。

1枚に1つずつ。
「授業中にスマホOKだった！」
「食前の“いただきます”がなかった」
など

Point2
よく似たものを近くに集めてグルーピングする。

「学校のきまり」
「マナー」
「食文化」など、
自然に分類されていきます

Point3
グループに名前を付ける。

たとえば、「文化の違い」
「テクノロジーと学校」
「言葉にできない伝わり方」など

3．レポート作成の準備

Step 3：テーマの候補を立ててしぼり込む・決める

関心が一番高い
一番「もっと知りたい！」と思うもの

調べやすい
データや情報など深堀できる材料がある

伝える価値
他の人にとっても面白く、伝える意味がある

国際交流による学びのテーマ例も参考に…

4．学びを深めるレポートの書き方

種類	目的	内容の中心	文章の特徴
感想文	体験したことに対する気持ち・印象を述べる	感情・印象・思ったこと	「感じたこと」が中心
調べ学習	調べたことをまとめて紹介する	客観的な情報・データ・資料	情報を整理・要約し主張はなし
✔ レポート	体験・調べたこと・考察から、自分が主張したいことや提案を伝える	経験＋調査分析＋意見・提案	自分が主張したいことに向けて意見や調べたことを構成的に書く（論理性）

経験から関心をもったことについて、調べて、自分の考えを深めていきましょう。
その結果、「私はこう思う！ という考えを、ぜひ理由と一緒に伝えましょう」

4．学びを深めるレポートの書き方

序論 約300～400字

本論 約1200～1400字
- 各論１
- 各論２
- 各論３

結論 約300～400字

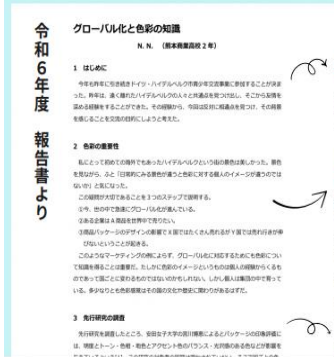
※約2000文字のレポートの場合

1. 序論（導入・問題提起）
自なぜこのテーマを選んだのか？
どんな経験や気づきがきっかけになったのか？
例：「ドイツで〇〇を体験し、日本との違いに驚いた」
「最初は～だったが、〇〇に気づいた」など

2. 本論（経験・追加調査・考察）
実際に体験したこと・調べたこと
それについてどう思ったか、どんな学びがあったか？
自分なりの提案やアイデア
※できる限り、写真の添付や参考資料も活用

3. 結論（まとめ・今後に向けて）
一番印象に残ったことは？
この体験をこれからどう活かしたいか？
将来への展望・課題
例：「この経験を活かして将来は〇〇になりたい」
「次の交流では〇〇を挑戦したい」

令和6年度　報告書より


グローバル化と色彩の知識

N. N.　（那本義塾高校２年）

1　はじめに

2　色彩の重要性

3　先行研究の調査

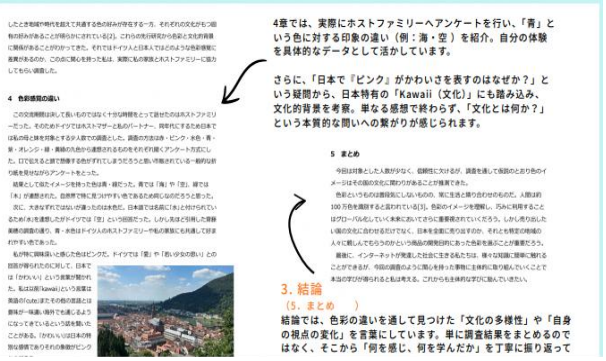
5．モデル報告書（解説）

1. 序論
（1．はじめに　）
序論は「なぜそのテーマにしたのか？」を伝える大事な部分です。「前年度の経験 → 新たな視点 → 研究の目的」と順番に書くことで、レポートの出発点がよく伝わっています。

2．本論（各論）
（2．色彩の重要性～4．色彩感覚の違い　）
本論では、自分が伝えたいことの根拠や理由を、体験・調査・資料などを使って詳しく説明しています。
このレポートでは、「なぜ街の色が違うのか？」を調べ、考え、自分の意見としてまとめています。単なる感想や事実紹介ではなく、「自分はどう考えたのか」を書くことが本論のポイントです。

2章では、「街の色彩が国によって異なるのは、単なる感覚ではなく文化やグローバル化と関係している」という論点が提示されています。

3章では、大学の研究や文献を調べ、「色彩が人の印象に与える影響」や「国ごとの違い」を事例として紹介しています。これ


4　色彩感覚の違い

5　まとめ

4章では、実際にホストファミリーへアンケートを行い、「青」という色に対する印象の違い（例：海・空 ）を紹介。自分の体験を具体的なデータとして活かしています。

さらに、「日本で『ピンク』がかわいさを表すのはなぜか？」という疑問から、日本特有の「Kawaii（文化）」にも踏み込み、文化的背景を考察。単なる感想で終わらず、「文化とは何か？」という本質的な問いへの繋がりが感じられます。

3．結論
（5．まとめ　）
結論では、色彩の違いを通して見つけた「文化の多様性」や「自身の視点の変化」を言葉にしています。単に調査結果をまとめるのではなく、そこから「何を感じ、何を学んだか」を丁寧に振り返って

参考文献の記述のポイント

参考文献
[1] 宮川博恵, パッケージの印象評価に与える配色の影響, 安田女子大学紀要, Vol.41, pp.343-352, 2013, https://core.ac.uk/download/pdf/229552701.pdf, 2024/09/29 閲覧.
[2] 齋藤美穂, 色と文化と心—色彩嗜好の国際比較から, 機関誌『水の文化』55 号, ミツカン水の文化センター, 2016, https://www.mizu.gr.jp/kikanshi/no55/04.html, 2024/09/29 閲覧.
[3] 河村正二, 色覚多様性の最新について, FBNews, No. 536, 2021, https://www.c-technol.co.jp/cms/wp-content/uploads/2021/08/FBN536_202108web.pdf, 2024/09/29 閲覧.

✅ 1. 自分の意見に「根拠」を持たせるため
✅ 2. 他の人の考えを「正しく使った」と示すため
✅ 3. 読む人が「もっと深く知る手がかり」になる
✅ 4. 将来のレポートや論文でも必ず必要になる

本・書籍の場合
著者名（出版年）『書名』出版社

例：山田太郎（2020）『色彩と文化』〇〇出版

雑誌・論文の場合
著者名（発表年）「論文タイトル」『雑誌名』巻（号）、ページ

例：鈴木花子（2019）「色の印象と文化的背景」『心理学研究』第45巻第3号、pp.12-20

Webサイトの場合
著者名または団体名（更新年または閲覧年）「記事タイトル」URL

例：文化庁（2022）「日本の色彩文化について
https://www.bunka.go.jp/colorculture/（2025，7月20日閲覧）

※インターネットは「いつ見たか（アクセス日）」も書きましょう。

6.次回に向けた宿題

「学びのテーマ」を念頭において、受入体験を最大限楽しみましょう♪

レポート作成の準備を行いましょう！
交流体験の中での気づきからレポート作成のテーマを決めましょう。

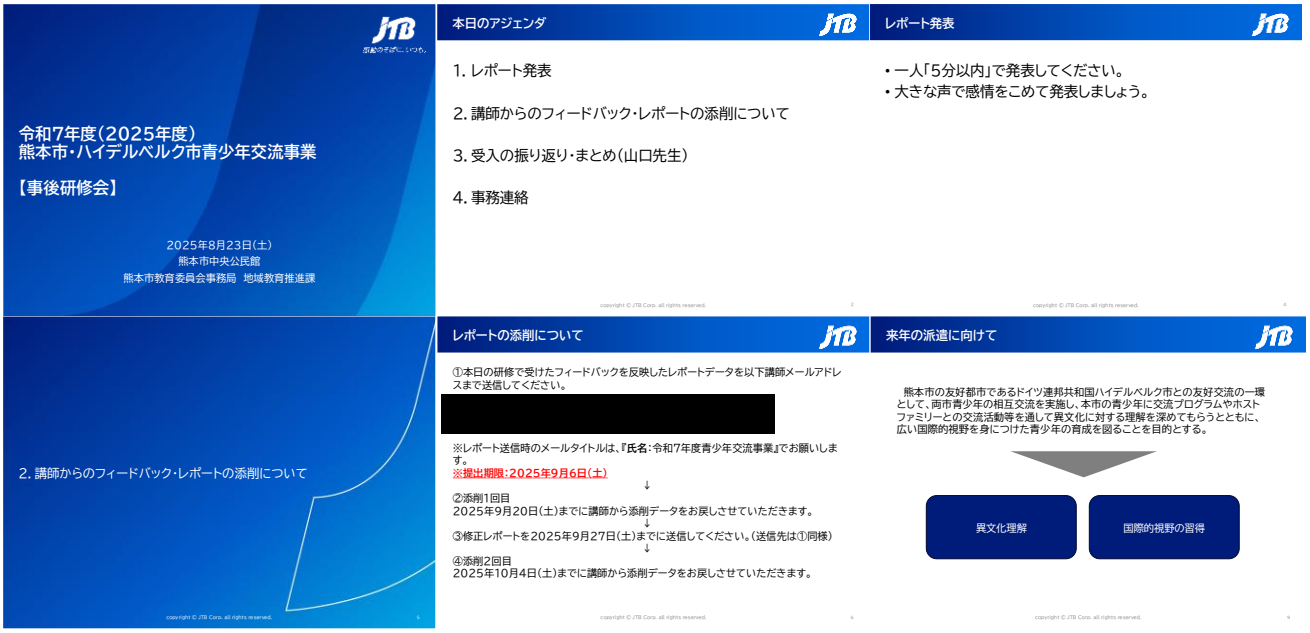
3．レポート作成の準備

レポートを書いてみましょう！
約2000文字程度を目安に、書いてみましょう。テーマに関して追加で調べたり、考えを深めます。

4．学びを深めるレポートの書き方

提出：Wordファイル推奨

・事後研修会資料（令和７年（２０２５年）８月２３日（土））



本日の流れ

1　アンケートに回答（スマホ）

2　次年度に向けた行動目標を決めよう

（フィッシュボーン）

3　共有・発表

次年度に向けた行動目標を決めよう！

1 現在または今後予想される課題を魚の頭の部分に書く。

2 課題の原因を「なぜ」を繰り返して根本原因を見つける 。(課題の深掘り)

① 課題の原因を、背骨から外側に書いていく。さらに、書きながら「なぜ」を繰り返して根本原因を見つけ出す。

② ①で見つけた根本原因の改善策を考える。

3 次年度の訪問までにやること（行動目標）を数値などを用いて具体的に書き出す。

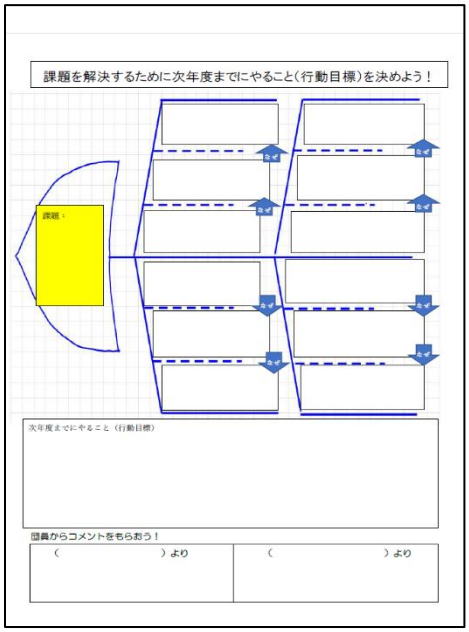
4 他の団員からコメントをもらおう！

3 共有・発表

・課題は何か

・その原因は何か

・次年度までの行動目標



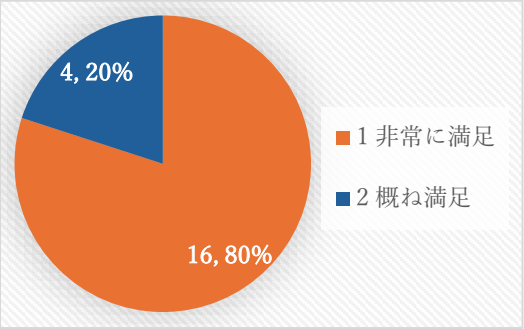
（フィッシュボーン様式）

【付録２】熊本市団員へのアンケート結果

項目	内容
調査名	令和７年度（２０２５年度）熊本市青少年交流団員アンケート
調査目的	受入プログラムの内容及び実施手法に対する参加者の満足度を把握し、次年度以降の改善点を明確化すること。
実施主体	山口　慎太郎 指導員（熊本市立必由館高等学校教諭）
有効回答数	回答数：２０人、回答率：１００％
調査実施日	令和７年（２０２５年）８月２３日（土）事後研修会時
調査方法	Web 上で回答

1　今回の交流事業に参加して、全体的に満足しましたか？（５段階評価）

選択肢	人数(人)	構成比(%)
非常に満足	１６	８０％
概ね満足	4	２０％
やや不満	0	0
非常に不満	0	0
わからない	0	0



2　特に印象に残ったプログラムは何ですか？（一部抜粋）

・火の国祭り
・長崎平和学習
・フェアウェルパーティー
・必由館高校での文化体験、長崎
・熊本県立大学でしたプログラミング
・美里町でのお泊まりが、大雨で予定通りに行かなかったことと、金峰山の時よりも耳と心が慣れて、同室のドイツの団員の子たちと話がすごく盛り上がったこと。
・公民館のようなところでのカラオケ。歌で人が繋がるのが素敵に感じた。

3　改善が必要だと感じたプログラムはありましたか？（一部抜粋）

・特になし
・街散策で活動時間帯が早かったので店が空いていなくてあまり活動できなかった。

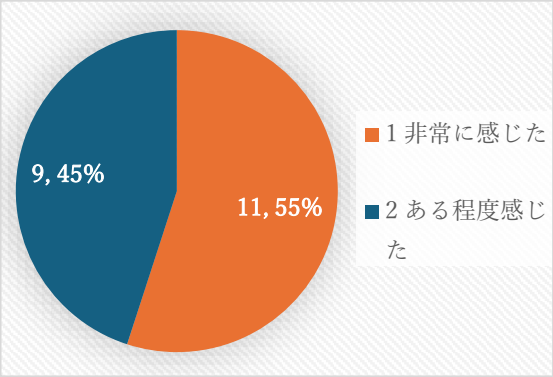
・長崎研修は一泊でもいいと思いました。
・個人的な意見で、戦争の様子を見ることが苦手な私は原爆資料館をあまりよく見られずに待機時間が長かったので、もう少し短くしてほしかったです。
・長崎の日は原爆のこととかバスの中でもいいから一緒に考えるものが必要だと感じた。
・美里町でのアドベンチャーについて、雨天時でもできるプログラムがあればいいなと思いました。

4　今後体験してみたいプログラムはありますか？（一部抜粋）

・ワークショップ（モノづくり）
・カラオケ
・食文化にもっと触れることができるプログラム
・ドイツの遊び
・火の国まつりのように私たち以外の日本の人と交流できるプログラム
・来年ドイツに行く際は、ドイツの伝統的な衣装を着てみたり、体験重視のプログラムをしたいです。
・ドイツでも集団でどこかに宿泊してみたい。観光で訪れるだけだはわからない日常をより深く体感したい。

5　異文化理解や語学力の向上を感じましたか？（５段階評価）

選択肢	人数（人）	構成比（%）
非常に感じた	１１	５５%
ある程度感じた	9	４５%
どちらともいえない	0	0
あまり感じなかった	0	0
全く感じなかった	0	0



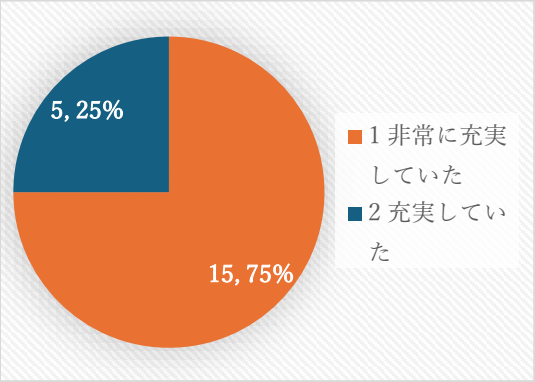
6　今回の経験を通して、将来の進路や考え方に変化はありましたか？（一部抜粋）

・国際的な視野を持って進路を考えようと思った。
・海外大学への進路を目指しているので、その思いが強くなった。
・教育系の道に進みたい。

・国籍を問わず、相手の考えを理解することの楽しさを知ったので、国際的なことに関する職につきたいと思った。
・それまでもあった英語力を活かした職に就きたいという気持ちがより強くなり、英語学習のモチベーションも向上した。
・文化に対する感じ方が変わったと思うし、文化を大事にしようと改めて思いました。
・短期間での自分の英語力の成長から、大学在学中に留学したいと思うようになった。

7　ホームステイの受け入れは充実していましたか？（５段階評価）

選択肢	人数（人）	構成比（%）
非常に充実していた	１５	７５％
充実していた	5	２５％
どちらともいえない	0	0
あまり充実していなかった	0	0
全く充実していなかった	0	0



8　ホームステイを受け入れるにあたり、困ったことや不安に感じたことはありますか？

（一部抜粋）

・全く無かった。
・最初体調不良、ホームシックが重なった時は不安でした。
・プライバシーを言語が違う故に気づかない間に侵害してしまうこと。
・パートナーが遠慮しがちだったので、ちゃんとやりたいことを聞き出せなかったこと。何が要る？と聞くとほとんど大丈夫だよと遠慮していたので相手がストレスを抱えながら生活しているのではと思った。
・家族とパートナー同士が話し合えるのか心配でした。
・朝ごはんや夕ご飯の量が足りているのかどうか。(私の家族に対しては遠慮しているように感じる場面が多かったため)

9　今年度の交流事業を通して、どのようなことが良かったと思いますか？（一部抜粋）

・初めて会うパートナーとたくさん喋って、言語を超えた繋がりができたことが嬉しかったです。また、様々なプログラムによって、家族とパートナーの仲も深まっていたのでよかったです。

・パートナーとお互いの国の違いについて話すことで新しい発見があり、パートナーの様子を見ているだけでも面白い気づきがたくさんあって良かったです。特にバスの中でクイズをした時一緒に考えてコミュニケーションを取れたのが良かっです。
・金峰山の体育館でみんなが初対面で緊張している中バレーやドッチボールなどのスポーツを取り入れたところがとてもよかった。
・私が１番よかったと思うのはバスの中や食事など話が続かなくても極力ペアの近くにいて、コミュニケーションを取ろうとしたところです。
・パートナーと本当に仲良くなれて、上手く伝えられないことがあってもお互い尊重しながら過ごせたこと。
・現時点での自分の英語力を図ることが出来ました。
・外国にたくさんの友達ができたことが一番の収穫で、それ以外にも自分が住んでいるところのよさを改めて感じ、身近なことでも自分の知らないことに気付いた。
・平和学習や日本の文化を改めて体験できたこと、またそれを通してハイデルベルク団員とのコミュニケーションからドイツの文化も学べ、たくさんの経験ができたこと。

１０　交流事業を通して、「もっとこうしておけば良かった」と思うことはありますか？

・英語の事前学習　（一部抜粋）
・事前に話せる英単語やドイツ語を増やしておくべきだった。
・移動中のバスや車の中で会話が途切れてしまうことがよくあったので、もっと話しておけばよかったなと思いました。また、写真ももっとこまめに取っておけばよかったと思いました。
・もっと事前に食の好みを聞いておければなと思いました。
・最初間違った文法で話すのが怖くて、翻訳に頼っていたけれど、途中から使わずにパートナーと会話をすると、すごく嬉しそうに、楽しそうに話してくれていたので、来年の訪問時にはもっと英語力を上げて、沢山話したい。
・もっと事前にホームステイ用語を英語で学んで翻訳機をつかうのを最低限にしておけばよかったと思いました。
・自分の英語力のなさにより一層気付かされました。理解はできるけど表現できず、いたたまれない気持ちになることが多かったので、英語は勉強するべきだなと思った。
・初日からもっと気になる事を聞いたりできていたら、相手のことをより知れたと思う。
・もっと日本について勉強して、それを英語でも話せるようにしておけばよかったなと思います。また、ドイツ語ももっと勉強しておけばよかったかなと思います。

熊本市教育委員会　地域教育推進課
（受託者　株式会社 JTB 熊本支店）